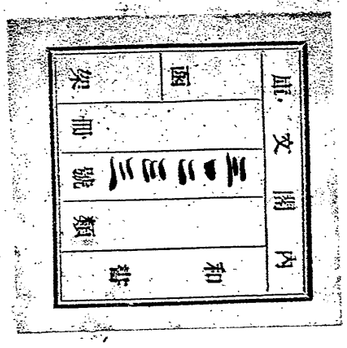
臺灣現勢要覽

明治四十年版

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



3023

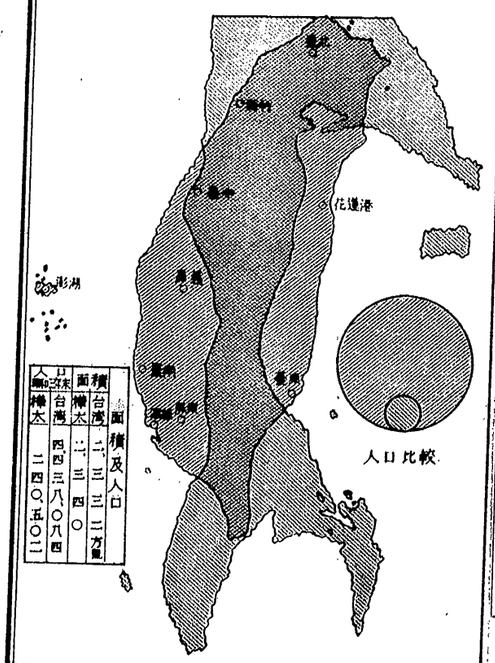
8/6

352
30233
16

臺灣現勢要覽

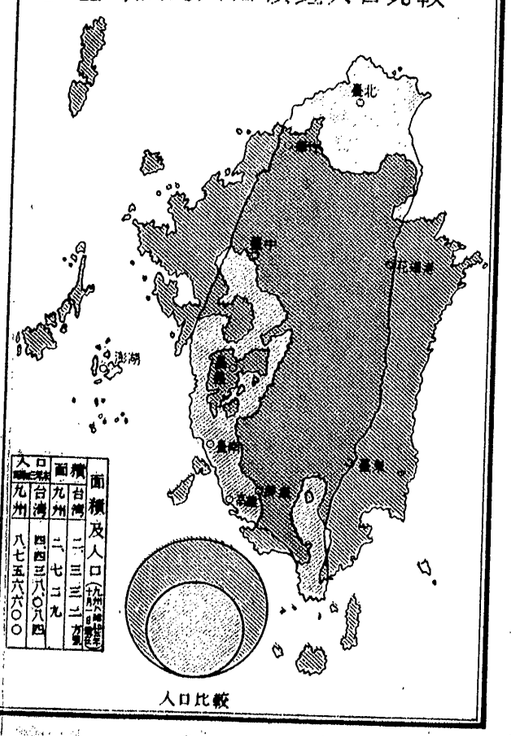
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

Ⅱ 臺灣及樺太面積竝人口比較



	面積	人口（千人）
臺灣	二、三三二方粁	四四三八〇八四
樺太	一、三三四〇	二四〇五〇二

Ⅰ 臺灣及九州面積竝人口比較

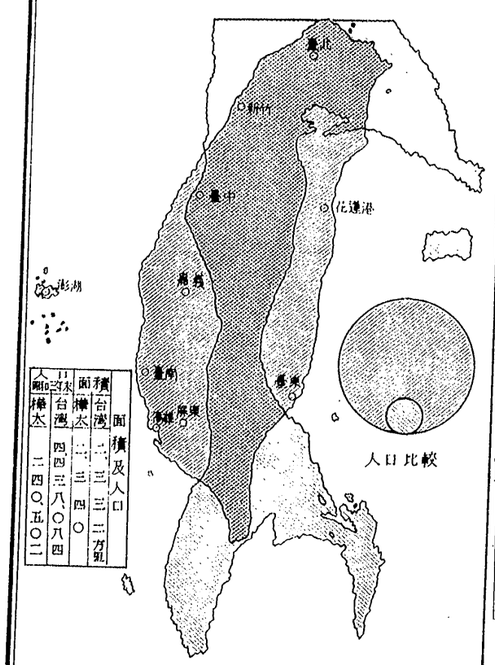


	面積	人口（千人）
臺灣	二、三三二方粁	四四三八〇八四
九州	二、七二九	八七五六六〇〇

露光量違いにより重複撮影

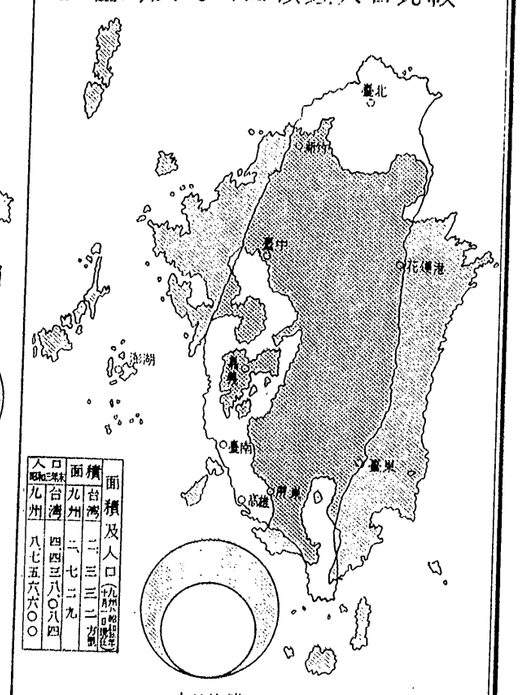
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Ⅱ 臺灣及樺太面積竝人口比較



面積及人口	面積	台灣	二、三三二方哩
		樺太	二、三四〇
	人口 昭和二年末	台灣	四、四三八、〇八四
		樺太	二四〇、五〇二

Ⅰ 臺灣及九州面積竝人口比較



面積及人口	面積	台灣	二、三三二方哩
		九州	二、七二九
	人口 昭和三年末	台灣	四、四三八、〇八四
		九州	八七五、六六〇、〇

露光量違いにより重複撮影

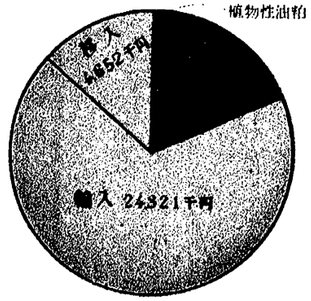
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

Ⅲ　肥料ノ生産.輸移入及消費（昭和三年）

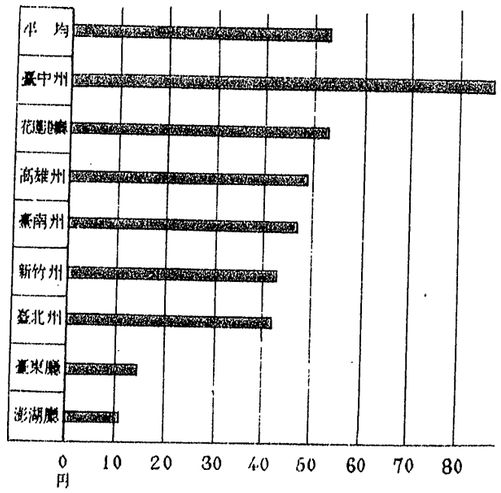
肥料消費高ノ割合

肥料生産及差引輸移入高ノ割合

植物性油粕



—甲當肥料消費高



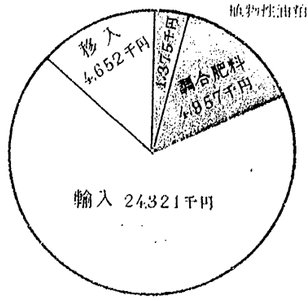
露光量違いにより重複撮影

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

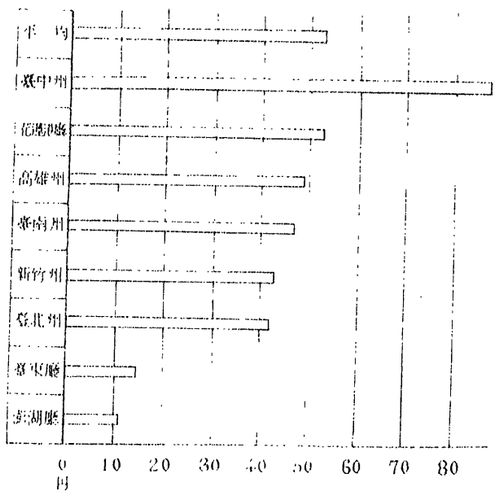
III　肥料ノ生産輸移入及消費（昭和三年）

肥料消費高ノ割合

肥料生産及差引輸移入高ノ割合



一甲當肥料消費高



露光量違いにより重複撮影

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

凡例

一　本書は、臺灣の現勢を知るの便に資せんが爲め、主要なる事項に就て、その統計的説明を試みたるものなり。

二　本書は、昭和三年の事實を基礎としたるも、その最近の統計あるものは勞めて之を採り、又昭和三年の事實不明のもの若は特に必要と認めたるものは、昭和三年以前の統計をも採りたり。

三　本書は、主として臺灣の現勢を知るを目的とするも、特にその變遷進歩の狀態を説明するの必要ある事項に就ては、累年の統計をも擧げたり。

四　本書は、帝國に於ける臺灣の地位を説明するの便に供せんが爲め、その必要なる事項に就ては、内地府縣、北海道、朝鮮、樺太、關東州等との比較對照をも試みたり。

昭和五年五月

臺灣總督府

臺灣現勢要覽目次

一 位置……一
二 面積……四
三 山嶽……六
四 河川……一〇
五 土地の利用……一三
六 氣溫……一四
七 雨量……一五
八 人口……一七
九 本籍別內地人……二〇
一〇 在外臺灣人……二三
一一 在留外國人……二六
一二 臺灣語を話す內地人……二八
一三 國語を解する本島人……三一
一四 婚姻、離婚、出生及死亡……三三
一五 出生率……三五
一六 死亡率……三七
一七 人口の增加……三八

三六 輸入貿易、輸出貿易及內國貿易の沿革……六六
三五 四 對外國貿易の概況……六四
三四 對手國別外國貿易……六二
三三 輸出入品……六〇
三二 貿易……五九
三一 工業……五八
三〇 水産業……五七
二九 鑛業……五六
二八 林業……五五
二七 農業……五四
二六 水利……五三
二五 耕地面積……五二
二四 農業……五一
二三 主要農産物……四九
二二 州及道廳の人口……四八
二一 行政區劃……四七
二〇 市制町村制……四六
一九 人口……四五
一八 議會……四四

圖表 五五 警察官吏及職員……一一四
五〇 郵便、電信、電話……一一六
四九 鐵道……一一八
四八 國有鐵道……一一〇
四七 運輸……一一二
四六 ペスト、マラリア……一一四
四五 水産……一一六
四四 衛生機關……一一八
四三 教育……一二〇
四二 物價……一二二
四一 經濟……一二四
四〇 專賣……一二六
三九 財政……一二八
三八 專賣品及內地稅……一二九
三七 港灣及九州內地稅……一三〇

圖表 I 農業及九州面積及人口比較
II 農業及九州面積及人口比較
III 肥料の生産、輸移入及消費

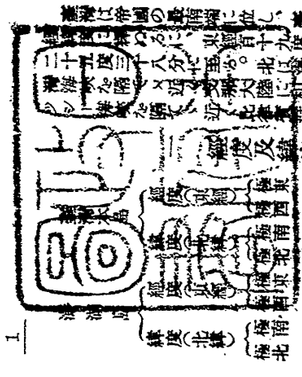
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

臺灣現勢要覽

一　位置

臺灣は帝國の最南端に位し、東經一百二十一度三十分より一百二十五度三十分に、北緯二十五度三十分より二十一度五十分に亙る。北は東大隈に相隣し、東は太平洋を隔て、遠く米大陸に相對し、南は巴士海峽を隔て、呂宋島に相隣す。

臺灣本島、澎湖列島及其の他の附屬島嶼より成る。今之を



臺灣	臺北州基隆市	基隆嶼	二五·六
同	同	花瓶嶼	二五·〇
同	同	棉花嶼	二四·五
澎湖島	澎湖廳	北嶼	二六·五
同	同	西嶼	二六·四
同	同	東嶼	二六·二
同	同	南嶼	二四·〇
同	同	北嶼	二五·六
極東	臺灣東海岸	東嶼	一二五·六
極西	同	西嶼	一二〇·〇
同	臺北州基隆市	北嶼	一二一·五
同	同	東嶼	一二一·六
同	臺北州淡水郡	北嶼	一二一·五
同	同	東嶼	一二一·六
同	臺北州新竹郡	北嶼	一二一·五
同	同	東嶼	一二一·六
同	臺北州宜蘭郡	北嶼	一二一·五
同	同	東嶼	一二一·六
同	臺北州宜蘭郡	北嶼	一二一·五
同	同	東嶼	一二一·六

二　距離　基隆を基點とする直航浬程

那覇	三三四浬
鹿兒島	六二四
長崎	六三三
門司	七七九
神戸（門司經由）	九八二
横濱（鹿兒島沖通過）	一、二二七
釜山	七二五
大連	八五〇
福州	一五一
廈門	二二六
汕頭	三三八
上海	四一八
香港	四七九
麻尼剌	七七六
海防（香港經由）	九六一
西貢	一、三〇〇
盤谷	一、九〇〇

新嘉坡	一、八三四
バタビヤ	二、一四〇

	面積		百分比例
總	四萬七千四百 方里	六千四百三十一 方粁	100·0
內地	三萬三千	六千四百四	五三
北海道	一萬四千三	三千四百一	三七
樺太	一萬四百〇	二千六〇四	二一
朝鮮	五千四百五	八六四百四	一·三
滿洲	一千六〇六	三千四百三	四·三

本表の外租借地として關東州(內內、樺太附屬地)の面積百三十九方里(二千百四十九方粁)及南滿鐵道附屬地の面積二百四十一方里(三千七百二十五方粁)を帝國統治權行使に依る。

二　面積

總督府は之を列國の面積に比すれば、稍〻小さく、帝國の中間に位す。

滿洲の面積は二千三百三十二方里にして、帝國の總面積四萬三千七百方里中その五分三厘に當る。

樺太は北緯四〇度二千六百七十八方里にして、朝鮮に比すれば約その六分の一に當る。

サルメドル(二千二百十三方里)

三山嶽

臺灣は帝國第一の高山新高山を始めとし、海拔一萬尺以上のもの四十八座、九千尺級のもの十七座、八千尺級のもの二十四座、七千尺級のもの二十六座を有す。故に七千尺以上の高山の總數は百十五座の多きに達し、所謂「高山國」の名に背かずして熱帶、暖帶、溫帶、寒帶等各種の林相を有す。

帝國の全領土を通して一萬尺以上の高山は總數六十一座を算し、就中臺灣四十八座を占め、內地は僅かに十三座を有し、北海道、朝鮮、樺太は共に之を缺く。卽ち新高山は一萬三千三十五尺を以て第一位を占め、富士山は漸く第六位に在り、內地第二の高山北嶽は僅かに四十一位を占むるに過ぎず。

	海面よりの高さ 尺	米	順位
新高山	一三,〇五五	三,九五〇	一
次高山	一二,九三一	三,九三一	二
秀姑巒山	一二,六五〇	三,八五三	三
マボラス山	一二,五八〇	三,八四六	四
南湖大山	一二,三五一	三,七九七	五
富士山(內地)	一二,二五〇	三,七七八	六
中央尖山	一二,一〇〇	三,七二五	七
關山	一二,一〇〇	三,六六七	八

大水窟山	一二,〇六八	三,六四五	九
嗒萊主山北峰	一二,八六五	三,九〇五	一〇
東郡大山	一二,八〇〇	三,八〇〇	一一
大霸尖山	一二,七九一	三,七九三	一二
雲峰	一二,六五八	三,五九九	一三
嗒萊主山	一二,四五六	三,四四四	一四
東巒大山	一二,四〇〇	三,四九五	一五
合歡山	一二,四〇〇	三,四九四	一六
北合歡山	一二,四〇〇	三,四九四	一七
東合歡山	一二,四〇〇	三,四九四	一八
南玉山	一二,二九一	三,四九一	一九
桃山	一二,二八〇	三,四九〇	二〇
シンカン山	一二,一七八	三,四八一	二一
畢祿山	一二,一七七	三,四七九	二二
丹大山	一二,一五一	三,四七一	二三
白姑大山	一二,一三四	三,四二九	二四
嗒萊主山南峰	一二,〇五一	三,四〇五	二五
南雙頭山	一二,〇〇〇	三,四〇〇	二六

能高山南峰	一一,〇〇〇	三,三三三	二八
卑南主山	一〇,九〇五	三,三〇五	二九
干卓萬山	一〇,九〇三	三,三〇四	三〇
カシパナン山	一〇,八六九	三,二九四	三一
那大山	一〇,八六五	三,二九二	三二
タロコ大山	一〇,八六三	三,二九二	三三
卑社大山	一〇,八一六	三,二七八	三四
小關山	一〇,七四〇	三,二五五	三五
能高山	一〇,七三三	三,二五二	三六
廓風山	一〇,六七五	三,二三四	三七
大武山	一〇,六六五	三,二三二	三八
尖山	一〇,六三三	三,二二二	三九
バトツノフ山	一〇,六三〇	三,二二一	四〇
北嶽(內地)	一〇,五三四	三,一九二	四一
間ノ嶽(內地)	一〇,五二四	三,一八九	四二
鎗ヶ嶽(內地)	一〇,四九二	三,一七九	四三
槍ヶ岳(內地)	一〇,四八七	三,一七八	四四
ハイノトーナン山	一〇,四七八	三,一七五	四五
マビーサン山	一〇,四五〇	三,一六七	四六

白石山	一〇,三五四	三,一三八	四七
ツソノシン山	一〇,三三四	三,一三二	四八
赤石山(內地)	一〇,二九六	三,一二〇	四九
奥穂高岳(內地)	一〇,二四〇	三,一〇三	五〇
東俣山(內地)	一〇,二一三	三,〇九五	五一
穂高岳(內地)	一〇,一九七	三,〇九〇	五二
安東郡山	一〇,一九三	三,〇八九	五三
檜大山	一〇,一五〇	三,〇七六	五四
御嶽山(內地)	一〇,一〇九	三,〇六三	五五
關門山	一〇,〇七三	三,〇五二	五六
大石公山	一〇,〇六〇	三,〇四八	五七
白根山(內地)	一〇,〇五五	三,〇四七	五八
小霸山	一〇,〇四三	三,〇四三	五九
仙丈ヶ嶽(內地)	一〇,〇〇九	三,〇三三	六〇
南嶽(內地)	一〇,〇〇八	三,〇三三	六一

內地の分は第四十六回國勢一班に依る。

四　河　川

臺灣は幅員狹く、その最も廣き部分と雖、僅かに四十里内外に過きす、且つ高峰南北に貫通するを以て、河川の發源孰れも近く、舟楫の便は多く望むへからす。流域二十里以上のもの僅かに十を算し、最長の河川たる濁水溪にして漸く四十二里に過きす。

濁水溪	四二〇里	一六四九粁
下淡水溪	二九七	一五五九
曾文溪	二三七	一三三〇
淡水河	二〇一	一〇〇〇
大甲溪	二〇〇	一七八
烏溪	一八六	一三〇
八獎溪	一六〇	一一一
秀姑巒溪	一三六	八八
卑南溪	一二五	八四四
大安溪	一〇五	八〇

本表は流域二十里以上のものゝみを掲く。

五　土地の利用

滿鐵の總面積は三百六十二萬七千町歩(三百七十萬九千甲)にして、內耕地八十一萬町歩(八十三萬甲)、林野二百五十四萬町歩(二百六十萬甲)、其の他二十七萬町歩(二十七萬甲)なり。

今之を內地其の他と比較するに、總面積に對する耕地の割合最も大なるは、關東州の五割四分にして、滿鐵は二割二分を以て之に次ぎ、樺太の八割一分最も大にして、期鮮の七割三分、北滿道、滿鐵の七割之に次ぎ、關東州の二割六分にして滿鐵の七分最も小なり。耕地及林野以外の土地の割合最も大なるは內地府縣の二割六分にして滿鐵及期鮮の七分最も小なり。

	實數			百分比例		
	耕地	林野	其他	耕地	林野	其他
內地府縣	三千八百八十一萬〇千町	五千六百五十四萬二千町	二千七百二十七萬〇千町	三割一分	四割六分	二割二分
北海道	四百二十二萬〇千町	三千三百四十萬〇千町	一千五百二十五萬〇千町	一割二分	九割六分	二割二分
樺太	三千〇百〇十町	三千四百〇十一萬〇千町	六百八十萬〇千町	〇分	八割九分	一割一分
關東州	二百三十萬〇千町	六百八十八萬〇千町	七百八十萬〇千町	一割六分	四割六分	三割八分
滿鐵	四百二十二萬〇千町	三千三百四十一萬〇千町	二百八十七萬〇千町	一割二分	九割六分	二割二分
期鮮	二百五十八萬〇千町	二百六十萬〇千町	二百七十七萬〇千町	三割一分	三割二分	三割四分

耕地は昭和三年末現在なり。

林野の滿鐵、樺太及關東州(內內地府縣は總)は同國統計書に依る。北滿道、期鮮は昭和四年三月末現在なり。

北滿道及內地府縣は昭和三年末現在、期鮮は昭和四年三月末現在なり。

大氣溫

樺太は北回歸線に跨り、半は氣帶圏に位するが故に、內地に比すれは夏季長く、冬季短き也、その最所氣溫は敢て熱帶に比すれは僅數なく、北部の平地に於ては隔々霜を見る非なしとせざるも極て稀なり。山ならざれは條數なく、北部の平地に於ては隔々霜を見る非なしとせざるも極て稀なり。

今內地其の他と比較するに、累年平均氣溫は我薩摩最も高きも、最高極數も高きも、最低極數の氣溫に至りては內地其の他の部分に却つて高き處あり。即ち薩摩の三十九度(華氏百二度二分)は新潟の三十九度二分(華氏百二度四分)は京阪の三十七度五分(華氏九十九度五分)より二分低く、又薩摩の三十六度九分(華氏九十八度四分)は京阪の三十七度五分(華氏九十九度五分)より六分低く、薩中の三十七度二分(華氏九十七度)は大阪の三十七度六分(華氏九十九度七分)より四分低し。更に相模の三十五度(華氏九十五度)(霞山、旭川と同し)及琵琶湖の三十三度五分(華氏九十二度三分)(鹿兒島と同し)は大泊、函館を除けは他の何れの地方よりも低し。

		昭和三年平均 攝氏	昭和三年平均 華氏	累年平均 攝氏	累年平均 華氏	最高の極 攝氏	最高の極 華氏	最高の極 年月	最低の極 攝氏	最低の極 華氏	最低の極 年月
薩摩	鹿兒島	二〇・〇	六八・〇	二〇・五	六八・九	三五・〇	九五・〇	一一—五	九・五	四八・一	一四—二
薩摩	宮崎	一九・七	六七・一	一九・四	六六・三	三五・〇	九五・〇	一〇—三	七・四	四五・三	一四—二
日向	延岡	一九・四	六六・三	一九・〇	六六・〇	三五・〇	九五・〇	一〇—一	七・四	四五・一	一四—二
日向	油津	一九・〇	六六・〇	一九・〇	六六・〇	三五・〇	九五・〇	一〇—一	七・四	四五・一	一四—二
日向	都城	一八・九	六五・四	一八・五	六五・〇	三五・〇	九五・〇	一〇—一	七・四	四五・一	一四—二
日向	宮崎	一八・四	六五・三	一八・〇	六四・四	三五・〇	九五・〇	一〇—一	七・四	四五・一	一四—二
日向	高千穂	一八・一	六四・六	一七・五	六四・〇	三五・〇	九五・〇	一〇—一	七・四	四五・一	一四—二
日向	都城	一七・八	六四・〇	一七・四	六三・三	三五・〇	九五・〇	一〇—一	七・四	四五・一	一四—二
日向	中湖	一七・五	六三・五	一七・〇	六二・六	三五・〇	九五・〇	一〇—一	七・四	四五・一	一四—二
薩摩	鹿兒島	一七・三	六三・一	一七・〇	六二・六	三五・〇	九五・〇	一〇—一	七・四	四五・一	一四—二
薩摩	北中湖	一七・〇	六二・六	一六・七	六二・一	三五・〇	九五・〇	一〇—一	七・四	四五・一	一四—二
薩摩	鹿兒島	一六・九	六二・四	一六・五	六一・〇	三五・〇	九五・〇	一〇—一	七・四	四五・一	一四—二
朝鮮	釜山	一四・七	五八・一	一四・〇	五七・二	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
朝鮮	城津	一四・五	五八・〇	一四・〇	五七・二	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
朝鮮	鮮山	一四・〇	五七・二	一三・五	五六・九	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
朝鮮	城津	一三・五	五六・九	一三・〇	五五・四	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
朝鮮	大津	一三・〇	五五・四	一二・五	五四・五	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
朝鮮	元山	一二・五	五四・五	一二・〇	五四・〇	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
朝鮮	大邱	一一・〇	五一・八	一一・〇	五一・八	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
朝鮮	釜山	一〇・〇	五〇・〇	一〇・〇	五〇・〇	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
內地	旭川	一〇・〇	五〇・〇	一〇・〇	五〇・〇	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
內地	札幌	一〇・〇	五〇・〇	一〇・〇	五〇・〇	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
內地	函館	一〇・〇	五〇・〇	一〇・〇	五〇・〇	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
內地	宿毛	一〇・〇	五〇・〇	一〇・〇	五〇・〇	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
內地	順州	一〇・〇	五〇・〇	一〇・〇	五〇・〇	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
內地	泊	一〇・〇	五〇・〇	一〇・〇	五〇・〇	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
內地	大津	一〇・〇	五〇・〇	一〇・〇	五〇・〇	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
內地	城崎	一〇・〇	五〇・〇	一〇・〇	五〇・〇	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
內地	京都	一〇・〇	五〇・〇	一〇・〇	五〇・〇	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
內地	長野	一〇・〇	五〇・〇	一〇・〇	五〇・〇	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一
內地	崎縣	一〇・〇	五〇・〇	一〇・〇	五〇・〇	三〇・〇	八六・〇	一一—一	一・〇	三四・〇	一二—一

青森	東京	一四五	五七四	一五〇	五〇〇	五四〇	五四	九七	四三一	一人	〔一〕	七一	一九三	一四五	一四一	一四一	一四一
新潟	横浜	一四三	五四四	一三九	五四一	五四七	五六六	九七九	一九一	七	〔一〕	九六	一五六	一四五	一四一	一四一	一四一
大阪	神戸	九三	四六四	九三	四六七	五六〇	九八	一〇三四	四一一	人	〔一〕	一九〇	〔一〕	一三	一四一	一四一	一四一

〔一〕は零點下を示す。

七　雨量

臺灣は南北に依り其の降雨期を異にす。即ち北部は十月より翌年三月迄の冬季六箇月、南部に於ては五月より九月に至る夏期五箇月を雨期とす。北部は基隆附近最も降雨量多く、南部に於ては恒春附近最も降雨量多く、基隆附近は一年平均五千一百粍を以て第一位を占め、且つ世界有數の降雨地として知らる。南部恒春は一年の總量九百六十粍なり。

更に之を内地其の他と比較すに、臺灣は全島を通して一般に他の地方よりも降雨量多し。

臺灣																	
基隆	澎湖島	臺灣	臺北	臺地	東京	南部	湖山	中山	北部	昭和三年	總數	粍	過去十年平均	總數	粍	昭和三年	雨多日數
										三三五	五七九	一三四	五三一	一四四	一〇〇	一四一	九一
										三四七	五四六	一三四	五六〇	一六四	一〇一	一一一	九一
										三四六	五六六	一四八	五六一	一四六	一〇一	一一六	九一
										三四七	五四〇	一四六	五四七	一四〇	一〇一	一一六	九一
										三四七	五四〇	一四六	五四七	一四〇	一〇一	一一六	九一

内	北	關	大	樺	國	朝	鮮
東	大	長	那	旭	札	幌	函
				地		海	道
						府	
京	阪	崎	府	縣	川	機	館
道	厦	洲	泊	太	津	城	山
鮮	鹿	麗					

三五〇元	三六元	三〇六三八	六八	三六	二〇六八	三五六	三五五
三六六三四	三四三	二〇三六四	三四	七七	六六四四	四〇六	三六元
三元	八五	元六元	元元	四〇	三元	元元	三四元
六六一三	六六一五	九一二四三	八一三	七一五	九一元	八一三元	九一四〇五

山	鹿	崎	縣	一七一〇	一〇一六
鹿	兒	島	縣	一五〇〇	一五〇〇

八　人　口

臺灣の總人口は昭和三年末現在四百四十萬人にして內、內地人二十一萬人、本島人四百十萬人(平地居住の蕃人を含む、蕃人八萬六千人(蕃地居住者のみ)、外國人四萬人なり。昭和三年末現在帝國の總人口は八千六百萬人を算し、臺灣は四百四十萬人(蕃地居住の蕃人を含む)にして實に其の五分を占む。

更に臺灣の人口を列國のそれに比すれば略々勃爾牙利と智利との中間に位す。

一　種族別人口　(昭和三年末現在)

	總數	男	女	百分比例
總數	四四〇八〇四	二二〇四四三	二二〇三五四一	100·0
內地人	三一〇三一	一一五六〇	九七四一	四八
本島人	四一〇〇三一	二〇八九四八	二〇一〇八五四	九三·四
蕃人	八六三六	四三五〇五	四三二五一	一·九
外國人	四〇五四	二七九〇	一三九四	〇·九

本島人中には平地の蕃社に居住する蕃人五萬二千九百七十八人を合算せり。故に本表の蕃人には蕃地の蕃社に居住する者のみを掲上せり。

二　內地其の他との人口比較　(昭和三年末現在)

	總數	實數	百分比例	一方里に付
臺灣	四四〇八〇四	八六九〇四五	100·0	一九六六
朝鮮	四四〇八〇四	一九一八九六九	平地 三·二	一九〇三 (平地面積のみなれば 三四九九)
樺太	三四〇五〇一	三四〇五〇一	三·三	一三四一
北海道	三八六九〇〇	三八六九〇〇	〇·三	一〇四
內地府縣	五五三三〇〇	五五三三〇〇	五·三	四五一

本表の外租借地としての關東州(州內、鐵道附屬地)は人口百十五萬九千二百二十六人を有し、一方里に付人口四千八百人及南洋委任統治區域は人口六萬千八十六人を有し、一方里に付人口四百三十九人を算す。

朝鮮、樺太、關東州及南洋委任統治區域は拓務省統計概要に依る。

北海道、內地府縣は昭和三年十月一日現在にして帝國統計年鑑に依る。

九　本籍別內地人

滿鐵在住內地人の總數は大正九年十月一日施行の國勢調査の結果に依れば、十六萬四千人にして內、熊本縣の一萬六千三百五十三人第二位を占め廣島縣は一萬六千二百七十二人を以て之に次ぎ、福岡縣は僅かに下りて八千八百九十八人を以て第三位に在り、**廣島**、山口の兩縣又之に次ぎ其の最も少きは**青森縣**の二百八十二人なり。

順位	百分比率	人口		
一	一〇·一	一六、五三三	熊本縣	熊本市
二	九·九	一六、二七二	廣島縣	廣島市
三	九·四	一五、四〇一	山口縣	山口市
四	八·六	一四、一〇二	福岡縣	福岡市
五	七·四	一二、一〇〇	佐賀縣	佐賀市
六	六·一	一〇、〇〇五	長崎縣	長崎市
七	五·九	九、七〇二	鹿兒島縣	鹿兒島市
八	五·四	八、八九八	宮崎縣	宮崎市
九	四·三	七、〇二〇	大分縣	大分市
10	三·九	六、三三二	熊本縣	熊本市
11	三·六	五、八九八	大阪府	大阪市

三	三·五	五、六三〇	愛媛縣	松山市
三	三·三	五、三〇〇	愛知縣	名古屋市
三	三·三	五、二〇〇	新潟縣	新潟市
三	三·二	五、〇〇〇	山梨縣	甲府市
三	三·〇	四、九一〇	岡山縣	岡山市
三	三·〇	四、九〇〇	福井縣	福井市
三	三·〇	四、八六〇	石川縣	金澤市
三	三·〇	四、八〇〇	島根縣	松江市
三	三·〇	四、七五〇	鳥取縣	鳥取市
三	三·〇	四、七〇〇	和歌山縣	和歌山市
三	三·〇	四、六五〇	岡山縣	岡山市
三	三·〇	四、六〇〇	兵庫縣	神戸市
三	三·〇	四、五五〇	滋賀縣	大津市
三	三·〇	四、五〇〇	香川縣	高松市
三	三·〇	四、四五〇	愛媛縣	松山市
三	三·〇	四、四〇〇	沖縄縣	那覇市
三	三·〇	四、三五〇	岐阜縣	岐阜市
三	三·〇	四、三〇〇	高知縣	高知市
三	三·〇	四、二五〇	宮崎縣	宮崎市
三	三·〇	四、二〇〇	岡山縣	岡山市
三	三·〇	四、一五〇	愛媛縣	松山市
三	三·〇	四、一〇〇	兵庫縣	神戸市
三	三·〇	四、〇五〇	滋賀縣	大津市
三	三·〇	四、〇〇〇	香川縣	高松市

長野	一、八〇三	一・一	三一
福井	一、七八六	一・一	三二
千葉	一、七四九	一・一	三三
神奈川	一、六〇六	一・〇	三四
滋賀	一、五六六	一・〇	三五
山形	一、四〇〇	〇・九	三六
鳥取	一、二八六	〇・八	三七
富山	一、二四七	〇・八	三八
山梨	一、〇六三	〇・七	三九
群馬	一、〇五三	〇・六	四〇
埼玉	一、〇三六	〇・六	四一
奈良	一、〇三五	〇・六	四二
北海道	九三三	〇・六	四三
栃木	八九五	〇・五	四四
岩手	八二七	〇・五	四五
秋田	七三六	〇・四	四六
青森	六二三	〇・二	四七

内地人總數十六萬四千二百六十六人中、内地に本籍を有せざる者二十六人、本籍不詳九人を除く。

	男	女	總數
爪哇	三〇五	一七〇	四七五
蘇門答臘	一四一	一二一	二六二
廣東	三六三	一二四	四七七
福建	一四四	一二一	二六五
浙江	一四八	一二一	二六九
總數	一、一〇五	五、一〇五	六、二一〇

一〇 在外華僑人

在外華僑人の總數は、大正九年十月一日施行の國勢調査の結果に依れば、四千七百八十五人にして、その大部分は支那に在留す。即ち支那在留華僑人の總數は四千二百三十六人に達し、支那以外の地方に在りては、爪哇の二百十八人第一位を占め、海峡植民地の百五人之に次ぐ。

	男	女	總數
爪哇	三〇五	一七〇	四七五
蘇門答臘	一四一	一二一	二六二
廣東	三六三	一二四	四七七
福建	一四四	一二一	二六五
浙江	一四八	一二一	二六九
總數	一、一〇五	五、一〇五	六、二一〇

	男	女	總數
印濃比湖香港	一、三五四	一、一二一	二、四七五
北ボルネオ	一、三五四	一、一二一	二、四七五
海峡植民地	一、三五四	一、一二一	二、四七五
他州地	一、三五四	一、一二一	二、四七五
計	一、三五四	一、一二一	二、四七五
印度	一、三五四	一、一二一	二、四七五
緬甸	一、三五四	一、一二一	二、四七五
暹羅	一、三五四	一、一二一	二、四七五
他州地	一、三五四	一、一二一	二、四七五

一一　在留外國人

臺灣在留外國人の總數は大正九年十月一日施行の國勢調査の結果に依れは、二萬三千六百六十四人なり、今之か國籍を糺ぬるに、支那人はその大部分を占め二萬三千四百六十七人を算し、英吉利人の八十九人、北米合衆國人の四十二人順次之に亞く。

總數	二三六六四
支那	二三四六七
英吉利	八九
北米合衆國	四二
西班牙	二六
智利	一〇
英領印度	五
ペオジュラ	四
比律賓	四
瑞典	三
露西亞	二
瑞典	二
佛蘭西	一
葡萄牙	一
丁抹	一
諾威	一
希臘	一
加拿陀	一
墨哥	一
西爾	一
伯剌西爾	一
波蘭	一
濠洲	一

本表の外、外國に國籍を有せさる者七百九十九人、國籍不詳三人あり。

本表には調査當日基隆碇泊の外國船乗組員をも含むを以て國籍數比較的多し。

二二　蘭語を話す内地人

内地人にして蘭語を話すもの、數は、明治三十八年の六千八百二十九人より、大正四年の一萬六千五百九十一人に增加し、更に大正九年には一萬七千二百七十三人に增加したるも、その内地人千に對する割合は、大正四年の百二十二人五分より、大正九年の百五人二分に減退したり。

	總數	男	女	指數	男女別内地人千に付 平均	男	女
明治三十八年	六、八二九	六、〇三〇	七九九	100	一一六・一	一四三・八	三五・六
同 大正四年	一六、五九一	一三、四三三	三、一五八	二四三	一二二・五	一六六・九	一〇三・一
同 大正九年	一七、二七三	一三、六六〇	三、六一三	二五三	一〇五・三	一六一・六	三九・一

本表は第一回及第二回戶口調査及に第一回國勢調査の結果にして何れも十月一日現在なり。

二三　國語を解する本島人

本島人にして國語を解するもの、數は、明治三十八年の一萬一千三百七十人より、大正四年の五萬四千三百三十七人に增加し、更に大正九年には九萬九千六十五人に增加したるも、尙ほ本島人千に對し僅かに二十六人六分を算するに過ぎず。

	總數	男	女	指數	男女別本島人千に付 平均	男	女
明治三十八年	一一、三七〇	一〇、六〇一	七六九	100	二六・六	四六・六	一〇・三
同 大正四年	五四、三三七	四四、三四四	一〇、〇九三	四七七	五六・三	九二・一	一一・六
同 大正九年	九九、〇六五	八六、八四一	一三、二二四	八七九	五六・六	九四・三	一二・六

本表は第一回及第二回戶口調査及に第一回國勢調査の結果にして何れも十月一日現在なり。

一四　婚姻、離婚、出生及死亡

離婚に於ける最近十七年間の婚姻、離婚、出生及死亡を觀るに、人口千に付婚姻は大正元年の十一件三分より昭和三年の九件八分に減少し、離婚は同じく一件五分より昭和三年には一件四厘に減少し、出生は大正元年の四十一人九分より昭和三年には四十四人一分に增加せり。死亡は年に依り非常の相違あり、大正元年の四十一人九分より昭和三年には九減五千人に減じたり。

か、出生の三十四人八分の多きに減じたるも、昭和三年には二十二人一分に減退したり。從つて出生の死亡超過數は年により著しき變化あり、大正七年の如き僅かに二萬人に過ぎざりしも、昭和三年には九減五千人に減じたり。

	婚姻	離婚	出生(生産)	死亡	(自然增加)
大正元年	三·九二	〇·八二	一四·〇九	一四·六三	四·四六
同　二年	三·六二	〇·一六	一四·一九	一四·六〇	四·五九
同　三年	三·四七	〇·一六	一四·六三	一四·一一	四·五二
同　四年	三·八六	〇·一五	一四·一四	一一·一一	三·〇三
同　五年	三·七〇	〇·一四	一三·七七	一〇·一九	三·一八
同　六年	三·〇五	〇·〇八	一四·〇九	九·九四	四·一〇
同　七年	四·〇二	〇·八六	一四·一三	一一·六七	二·四六
同　八年	三·一四	〇·一五	一四·一〇	九·九一	四·一九
同　九年	四·〇九	〇·一二	一四·〇八	一一·六四	二·四一
同十　年	四·〇九	〇·八八	一四·一六	九·一四	五·〇二
同十一年	三·七一	〇·一五	一四·一九	九·一四	五·〇五
同十二年	三·六〇	〇·一八	一四·〇八	八·一〇	五·九八
同十三年	四·一〇	〇·一四	一四·一九	八·〇四	六·一五
同十四年	三·七四	〇·〇六	一四·〇一	八·〇四	六·〇六
昭和元年	四·二八	〇·一二	一三·九〇	九·二〇	四·七〇
同　二年	四·四三	〇·一四	一三·八九	九·二四	四·六五
同　三年	四·二九	〇·一六	一四·一九	九·一〇	四·九九

一五　出生率

臺灣の出生率は之を最近十七年間に就て觀るに、年に依りて增減ありと雖概して增加の趨勢にあり、昭和三年は人口千に付四十四人一分を示せり。

更に之を內地其の他と比較するに、臺灣は其の割合最も高く、北海道之に亞き、關東州最も低し。又列國中出生率の最も高きは智利（昭和元年は四十人二分）なるか故に、我臺灣の出生率は世界に於て最も高き部類に屬す。

一　出生率（人口千に付）

	平均	內地人	本島人	外國人
大正元年	四一九	二九八	四三五	二一八
同二年	四一四	三〇七	四二〇	一五五
同三年	四二一	三〇八	四二八	一六〇
同四年	四〇九	三二七	四一四	一八八
同五年	三八一	三三五	三八四	一八六
同六年	四一六	三四四	四一九	一九三
同七年	四〇五	三三四	四〇九	二〇五
同八年	三九三	三三二	三九六	二二一
同九年	四〇一	三二八	四〇六	二二六
同十年	四三二	三三一	四三七	二四五
同十一年	四三五	三六九	四三八	二四七
同十二年	三九六	三五〇	三九九	二三七
同十三年	四〇〇	三六二	四〇四	二三六
同十四年	四一二	三三七	四一八	二三七
昭和元年	四四一	三三九	四四五	二四一
同二年	四三六	三二九	四四八	二四八
同三年	四四一	三二九	四四八	二四八

二　內地其の他との出生率累年比較（人口千に付）

	臺灣	朝鮮	樺太	關東州	北海道	內地府縣
大正元年	四一九	三八九	三三〇	三九六	四三五	三三九
同二年	四一四	三九七	三四三	三三三	四三五	三三七
同三年	四二一	三八三	三三九	三三五	四〇九	三三七
同四年	四〇九	三七三	三四七	三九〇	四一〇	三三七
同五年	三八一	三三八	三三二	三三〇	四一九	三三一
同六年	四一六	三三八	三四〇	三三八	四〇四	三三九
同七年	四〇五	三四〇	三四〇	三六九	四〇四	三三五
同八年	三九三	三七八	三六四	三五六	三七〇	三三八

同　九年	四〇一	二七六	三五二	四二三	三四七
同十　年	四三三	二九七	三二三	三八五	三四九
同十一年	四二三	三三八	三二三	三七四	三四三
同十二年	四〇二	三八二	三五四	三五八	三四九
同十三年	四二〇	三八二	三四三	三七三	三四九
同十四年	四一一	三八〇	三三〇	三八七	三四六
昭和元年	四四一	三五四	三三三	三九〇	三四六
同　二年	四三六	三六五	三四八	三五三	三四四
同　三年	四四一	三六六	三六九	四〇〇	三四一

朝鮮、樺太、關東州(州內、鐵道附屬地、領事館)は同廳統計書に依り算出す。
北海道、內地府縣は帝國統計年鑑に依り算出す。

一六　死亡率

臺灣の死亡率は之を最近十七年間に就て觀るに、是れ亦高低常ならずと雖、大正十二年には著しく低下し、人口千に付二十一人六分を以て最低の記錄を示せり。內地人の死亡率は之を本島人に比すれは甚た低く、昭和三年には本島人二十二人七分なるに對し、內地人は僅かに十一人八分を示せり。

更に之を內地其の他と比較するに、死亡率の最も低きは關東州にして、北海道之に亞き、最近は我臺灣最も高率を示しつゝありしか昭和三年には朝鮮の二十二人六分最も高し。(列國中死亡率の最も高きは、智利にして昭和元年には二十七人三分を示せり)。

一　死亡率　(人口千に付)

	平均	內地人	本島人	外國人
大正元年	二五三	一五八	二五八	一五四
同　二年	二五三	一五三	二五八	一三一
同　三年	二六一	一五〇	二六七	一九五
同　四年	三二三	一七三	三二九	一九四
同　五年	二九二	一六〇	二九八	一六八
同　六年	二七五	一六五	二八〇	一七七
同　七年	二四八	一九六	二五五	二二七

	朝鮮	樺太	關東州	北海道	内地府縣
同同同同同大正元年	三五·五	三六·五	二六·四	三〇·六	二六·六
六五四三二年	三五·五	三六·五	二七·七	二九·四	二九·五
年年年年年	二六·一	二六·〇	二七·七	三〇·四	三〇·四
	三三·三	三三·六	二六·一	二九·〇	二九·〇
	三三·〇	三三·〇	二六·〇	三〇·六	三一·四
	三四·一	三三·五	二六·〇	二九·六	二九·六
	三四·九	三三·四	二六·七	二九·四	二九·四
	三五·〇	三三·五	二六·六	二九·〇	二九·〇
	三五·四	三三·四	二六·五	二八·六	二八·六
	三五·五	三三·五	二六·五	二八·五	二八·五
	三五·五	三三·六	二六·六	二八·五	二八·五

二　内地其の他との死亡率累年比較（人口千に付）

	朝鮮	樺太	關東州	北海道	内地府縣
同同昭同同同同同	三五·〇	三六·〇	二六·〇	二八·〇	二八·〇
和	三四·五	三三·五	二五·五	二八·五	二八·五
十十十十十	三四·四	三三·四	二五·九	二八·四	二八·四
元四三二一	三三·〇	三三·七	二五·四	二八·〇	二八·〇
年年年年年	三三·六	三三·四	二五·〇	二七·六	二七·六
年年年年年	三四·一	三三·五	二五·六	二七·五	二七·五
	三四·九	三三·四	二五·七	二七·四	二七·四
	三五·〇	三三·五	二五·七	二七·〇	二七·〇
	三五·四	三三·四	二五·五	二六·六	二六·六
	三五·五	三三·五	二五·五	二六·五	二六·五
	三五·五	三三·六	二五·六	二六·五	二六·五

	朝鮮	樺太	關東州	北海道	内地府縣
同同昭和十四年	三五·〇	三六·〇	二五·〇	二六·〇	二六·〇
同同十三年	三四·五	三三·五	二四·五	二五·五	二五·五
同同十二年	三四·四	三三·四	二四·四	二五·四	二五·四
同同十一年	三四·〇	三三·六	二四·〇	二五·〇	二五·〇
同同十年	三三·四	三三·四	二四·七	二四·六	二四·六
同同九年	三三·五	三三·五	二四·六	二四·五	二四·五
同同八年	三三·六	三三·六	二四·五	二四·四	二四·四
同同七年	三四·一	三三·七	二四·四	二四·〇	二四·〇

朝鮮、樺太、關東州（其内、内地所謂は帝國統計年鑑並附屬地、新領土館）は同統計書に依り算出す。
北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依り算出す。

一七　人口の増加

滿鮮の人口は、明治三十八年十月一日施行の第一回戸口調査の結果に依れば、三百萬なりしも過去十七年大正元年末には三百三十五萬に増加し、更に昭和三年末には四百三十五萬に達し過去十七年間に三割の増加を示せり。

更に人口増加を内地朝鮮其の他と比較するに、増加の割合最も大なるは樺太にして、關東州之に次き、北滿洲、朝鮮、滿鮮、内地の順序を以て之に亞ぐ。

一　最近十七箇年間の人口（各年末現在）

	總數	男	女	指數
大正元年	三五〇〇〇〇〇	一七五〇〇〇〇	一七五〇〇〇〇	100
同二年	三〇四〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	104
同三年	三〇四〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	104
同四年	三〇四〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	104
同五年	三〇四〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	104
同六年	三〇五〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	104
同七年	三〇五〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	104
同八年	三〇五〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	104
同九年	三〇五〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	104
同十年	三〇五〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	104
同十一年	三〇五〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	104
同十二年	三〇五〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	104
同昭和元年	三〇五〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	104
同二年	三〇五〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	104
同三年	三〇五〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	104

尚本表には滿地の滿社に居住する滿人を除き、平地の滿社に居住する滿人は之を算入せり。

二　内地其の他との累年人口指數比較（各年末現在）

	滿鮮	朝鮮	樺太	關東州	北滿洲	内地府縣
大正元年	100	100	100	100	100	100
同二年	104	104	104	104	104	101
同三年	104	107	107	107	107	103
同四年	104	110	108	111	110	104
同五年	105	113	109	113	113	105
同六年	105	113	109	113	113	107

同七年	一〇七	一二五	一六九	一二九	一三五	一〇六
同八年	一〇八	一一六	一〇一	一三七	一二九	一〇七
同九年	一一〇	一一七	一一六	一五六	一三三	一〇六
同十年	一一三	一一八	一二四	一五六	一四三	一〇七
同十一年	一一四	一一九	一六五	一六二	一四九	一〇九
同十二年	一一六	一二一	一二三	一六八	一五六	一一〇
同十三年	一一八	一二二	一三二	一七四	一六三	一一一
同十四年	一二一	一二九	一四九	一八七	一四八	一一三
昭和元年	一二四	一二九	一四三	一八八	一五五	一一五
同二年	一二七	一二九	一五五	一九七	一四七	一一六
同三年	一三〇	一二九	一七一	二〇六	一四九	一一八

朝鮮、樺太、關東州(州內、鐵道附屬地、領事館)は同廳統計書に依る。
北海道、內地府縣は帝國統計年鑑に依る。
內地府縣及北海道の大正九年以後は十月一日現在なり。

一八　蕃　人

臺灣の蕃人は之をタイヤル、サイセット、ブヌン、ツオウ、パイワン、アミ及ヤミの七種族に分つ。昭和三年末現在蕃社數は七百三十、戶數二萬三千四百九十六、人口十三萬九千人なるも、就中五萬三千人は平地の蕃社に居住するが故に、實際蕃地に居住するものゝ數は八萬六千人なり。

各種族中人口最も多きは從來パイワン族なりしが、昭和三年末に於てはアミ族稍や多數となり共に總人口の約三割を占め、タイヤル族の二割四分之に亞ぐ。

	總數	男	女	百分比例
總數	一三九、二三四	六九、八二三	六九、四一二	一〇〇・〇
タイヤル	三三、二九六	一六、三九一	一六、九〇五	二三・九
サイセット	一、二五五	六三〇	六二五	〇・九
ブヌン	一八、〇八三	九、三六九	八、七一三	一三・〇
ツオウ	二、〇一七	一、〇七四	九四三	一・四
パイワン	四一、三四四	二〇、八〇八	二〇、五三六	二九・七
アミ	四一、六七七	二〇、七七一	二〇、九〇六	二九・九
ヤミ	一、六〇三	八四〇	七六三	一・二

本表中平地の蕃社に居住する蕃人五萬二千九百七十八人は本島人として人口統計に計上せらる。

一九　行政區劃

臺灣の地方行政區劃は、多數の變遷を經たる後、大正九年九月一日に改められたりしも、大正十五年十月一日復た根本的改正を加へ、從來の十二廳を廢して三廳となし、現に五州二廳を五州に改め、之を七市四十五郡の下に十五支廳に分ち、支廳の下には三街五庄十九區を置く。

澎湖廳は、之を十支廳に分ち、支廳には三十庄を置き、三廳は之を現に五州に改め、澎湖廳の下には二百二十庄を置く。

全

澎湖廳　臺南州　臺東州　臺北州　臺中州　臺南州　臺北州　島

本表は昭和五年一月末現在なり。

支廳	郡	市	街	庄	區
一〇	一九	七	三	一	一八
一	二	一	一	一	一
一	一〇	一	一	一	一
一	一〇	一	一	一	二
四	三	三	四	四	一

一〇 州及廳の面積

五州三廳中、面積の最大なるは臺中州の四百七十八方里餘にして、高雄、臺南、花蓮港、新竹、臺北、臺東の順序を以て之に至き、澎湖廳は僅かに八方里餘を以て最小の地位を占む。

今之を內地府縣に比較すれば、臺中州は熊本、宮城の中間に、高雄州は山口、三重の中間に、臺南州は愛媛、千葉の中間に、花蓮港廳は石川、鳥取の中間に、新竹州及臺北州は京都、山梨の中間に位し、澎湖廳は面積狹小にして比較すべき府縣なし。

一　州及廳の面積

	面積	百分比例
全	二三三五・〇〇	一〇〇・〇〇
高雄	三五六・三六	一五・二七
臺南	四八七・二一	二一・三八
臺北	五三一・五二	二二・七〇
臺東	五七三・四三	二四・五〇
新竹	五七三・四三	二四・五〇
臺中	四七八・〇〇	二〇・四〇
澎湖廳	八・〇〇	〇・三四

二　内地府縣との面積比較

		面積	
澎湖廳	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
東港郡	一三六・四	一四〇平方粁	一四〇平方粁
蘭嶼廳	一三六・四	一四〇平方粁	一四〇平方粁
京都府	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
花蓮港廳	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
和歌山縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
千葉縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
鹿兒島縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
三重縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
高雄州	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
滿洲國	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
宮城縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
熊本縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
城崎縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
口縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
中縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
三滿州國	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
三重縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
高雄州	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
滿洲國	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
宮城縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
熊本縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
城崎縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
口縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
中縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
三滿州國	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
三重縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
高雄州	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁
滿洲國	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁	一四〇平方粁

烏蘇里州	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁
奈良縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁
北海道	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁
竹島	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁
熊本縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁
鹿兒島縣	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁
州	一三〇〇・〇〇	一四〇平方粁

三　州及縣の人口

五州三縣中人口の最も多きは薩南州の百十一萬人にして、薩中州は九十五萬人を以てこれに次き、以下薩北、新竹、南樂、花蓮港、澎湖、薩東の順序を以てし、一方里の人口は澎湖薩東の七千六百人最も高く、薩東縣の七百人最も低し。

今之を內地府縣に比較すれば、薩南州は栃木、宮城の中間に、薩中州は秋田、大分の中間に、薩北州は岩手、青森の中間に、新竹州は滋賀、山梨の中間に、南樂州は奈良、井縣の中間に位し、花蓮港、薩東及澎湖の三縣は人口餘りに少くして比較すべき類似の府縣なし。

一　州及縣の人口（昭和三年末現在）

		實數	百分比例	一方里に付人口 面積（本島人居住地面積を除外したもの）	一方里に付人口 全面積
全島		四百二六六	100·0	三四九	一七四
薩南州	薩南州	一二六三九	三七·九	三四〇五	三〇三
薩中州	薩中州	九四四六六	二四·九	三六〇〇	三三四
薩北州	薩北州	八四四九六	二二·九	四三三	三〇〇九
新竹州	新竹州	六六三六六	一七·四	三四六	二六〇

南樂州	南樂州	四〇三五	一·〇
澎湖縣	澎湖縣	四三三四	一·〇
花蓮港州	花蓮港州	四六〇六	一·六
蓬萊州	蓬萊州	四三六〇六	一·四

本表には蕃地の蕃社に居住する蕃人を含まず、但し一方里に付人口の全面積には蕃地居住の蕃人をも加へて算出せり。

二　內地府縣との人口比較

	人口（昭和三年末現在）	一方里に付人口（內地府縣は昭和三年十月一日現在）
滋賀縣	六四〇〇〇	三〇九
岩手縣	六六〇〇〇	三〇九
大分縣	六六〇〇〇	三〇九
秋田縣	六六〇〇〇	三〇九
宮城縣	六六〇〇〇	三〇九
栃木縣	六六〇〇〇	三〇九
南樂州	一一六三九	三四〇五
薩中州	九四四六六	三六〇〇
薩北州	八四四九六	四三三
新竹州	六六三六六	二六〇

三　主要都市

滿洲には昭和三年末に於て五市、三十四街あり。就中人口二萬以上の市及街は二十五にして、その第一位を占むるは滿北市の二十二萬、之に次ぐは滿南市の九萬二千、奉天市の七萬二千、高雄市及滿鐵街の五萬三千、滿中市の四萬九千、新竹街の四萬三千等なり。而して東部に於ける顯所在地たる滿東、花蓮港の兩街は僅かに一萬餘を有するのみなり。

次に州及廳政に治役所の所在地たる五市、三街を內地人人口比較するに、大正十四年末の現在に依れば、我が滿北市は、大阪、東京、名古屋、京都、神戸、橫濱、東京、廣島の八市に次で第九位を占め、長崎市の上に位し、滿鐵市は第十、釜山府市は第十一、新竹街の中間に、高雄市は林田、鄭山兩市の中間に、新竹街の中間に、戸畑兩市は沼津、戸畑兩市の中間に位す。而して滿東、花蓮港の兩街は共にその人口樣次の高岡、原より少し。

一　主要都市の人口（昭和三年末現在）

順位	外國人	本島人	內地人	總數	州廳名	都市名
一	三四、〇〇〇	一四、〇〇〇	六一、〇〇〇	三九、〇〇〇	滿北州	滿北市
二	三〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	二四、〇〇〇	七二、〇〇〇	滿南州	滿南市
三	一五、〇〇〇	六〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	九五、〇〇〇	滿北州	滿北市
四	一〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三四、〇〇〇	滿北州	滿北市

嘉義街(臺南州)	五二、六七七	八、二四三	四三、九四三	一、四三三	五
臺中市(臺中州)	四八、七七七	一三、三七八	三五、三一九	一、三三三	六
新竹街(新竹州)	四三、四四八	四、八六五	三七、一七二	四八三	七
鹿港街(臺中州)	三四、六六〇	二四六	三四、三一八	一八六	八
屏東街(高雄州)	三二、八〇三	四、三六九	二六、四四四	一、〇九〇	九
斗六街(臺南州)	二九、五五八	一、〇〇八	二八、三六五	三五五	一〇
大溪街(新竹州)	二八、三三八	三七〇	二〇、八九九	六三	一一
清水街(臺中州)	二八、一六八	二六五	二七、七三〇	五五	一二
員林街(同)	二六、七五三	六四〇	二五、八八九	三四三	一三
麻豆街(臺南州)	二六、四四八	六六五	二五、六七〇	六三	一四
豐原街(臺中州)	二六、一六八	七七一	二五、三七七	二四〇	一五
埔里街(同)	二五、七一二	九五〇	二四、五六五	六九	一六
南投街(同)	二四、五七〇	八〇七	二五、七五五	二八	一七
宜蘭街(臺北州)	二三、四四五	三、二四一	二二、〇四四	八〇	一八
淡水街(同)	二三、二七八	八三二	二三、三三六	三五二	一九
西螺街(臺南州)	二二、八五三	一六六	二二、五八三	六三	二〇
馬公街(澎湖廳)	二一、七三三	三、七七七	一八、九三〇	一六五	二一
北港街(臺南州)	二一、五六八	八〇五	二〇、六四四	二二	二二
桃園街(新竹州)	二一、二三三	八九九	二〇、三八八	八六	二三

彰化街(臺中州)	二一、三四〇	二、三八七	一九、三九九	六〇四	二四
大甲街(同)	二〇、三一三	二、一四八	一九、六八七	八〇	二五
臺東街(臺東廳)	九、八六八	一、九〇三	七、四六八	四六八	二六
花蓮港街(花蓮港廳)	九、六九五	四、三〇九	四、八九〇	五九五	二七

本表には人口二萬以上の市及街のみを擧け、且つ廳所在地たる臺東、花蓮港兩街を揭く。

二　内地其の他の都市との人口比較

(大正十四年十月一日現在)(括弧内の數字は昭和三年末現在)

	人口
廣島	一九五、七三一
臺北	一九五、四五五(二二九、五六六)
長崎	一八九、〇七一
釜山	一〇六、五九九
濱松	九三、三二三
平壤	八九、四二四
臺南	八四、八四一(九二、一四九)
靜岡	八四、七三二
松本	五三、四三七

花蓮港　豐戸　新沼　四釜　郡司　高秋　仁岡　著

原　運　目

内地、朝鮮、樺太は同盟統計年鑑に依る。

樺太は帝國統計年鑑に依る。

港東　太　細竹　津市　中島　山崎　田川　井隆

三三　農業戸數

農業戸數は内地、朝鮮、樺太、關東州（附内、關東州）は同盟統計年鑑に依る。

樺太は昭和三年の非實施の數字なり。

	農業戸數	付表戸數百に對する農業戸數	常業耕地面積一戸當
内地	四〇五五四〇	四三・三	二・〇
北海道	三五九二八	三三・三	二・六
樺太	一〇六四〇	三一・八	四・五
關東州	四五二四	四二・六	二・〇
朝鮮	一三四〇八六	四五・三	一・四

樺太の農業戸數は四十戸にして、總戸數の約五割一分を占め、農業者一戸當平均耕地面積は二町〇二畝（二甲強）に當る。

今之を内地其の他と比較するに、總戸數に對する農業戸數の割合最も大なるは、朝鮮の七割七分にして、樺太は第二位を占め、樺太は僅かに二割二分を以て最下位に在り。

農業者一戸當平均耕地面積の最も大なるは、北海道の四町六段にして、樺太の二町六段之に次ぎ、樺太は第四位を占め、内地、朝鮮、關東は一町歩を以て最下位に在り。

北海道、内地府縣は農林省統計表に依る。

三四　耕地面積

滿洲の耕地は總面積の二割餘を占め、其の面積は八十一萬町歩（八十三萬畝）にして內、田三十九萬町歩（四十萬畝）、畑四十二萬町歩（四十三萬畝）なり。

今之を內地、朝鮮の夫と比較するに、總面積に對する耕地面積の割合最も大なるは、關東州の五割四分にして、滿洲は之に次ぎ、朝鮮の二割は其の約三倍を占む。耕地の內、田の割合畑より大なるは內地府縣のみにして、樺太の如きは全然田を有せず。

	內地府縣	北海道	關東州	樺太	朝鮮	滿洲
耕地面積 畑 數	四百六十萬五千町	四百三萬四千町	三萬〇千町	一萬〇千町	四百三十二萬五千町	八百三萬五千町
耕地面積 田	三百五十六萬〇千町	六萬〇千町	一萬六千町	一萬六千町	二百九十二萬五千町	三百九十萬五千町
耕地面積 畑	一百〇四萬五千町	三百九十七萬五千町	二萬〇千町	一萬〇千町	一百四十萬〇千町	四百二十萬〇千町
百分比例 田	五割六分	三分六厘	〇人	一	五割六分	五割六分
百分比例 畑	五割四分	九割六分	一百〇人	一百〇〇	一百〇〇	四割四分
耕地面積に對する割合	二千五百四十人	一千八百〇五人	一千一百〇人	〇人	一千〇人	一千八百〇人

本表は昭和三年末の統計なり。

朝鮮、樺太、關東州（內內、滿洲附屬地）は同總督廳統計書に依る。

北海道、內地府縣は農林省統計表に依る。

二五　水　利

灌漑に於ける埋圳の數は、七千七百一にして内、水利組合百五、公共埋圳三、認定外埋圳七千五百九十三なり。又其の灌漑排水面積は四十萬甲にして内其の五割は水利組合の灌漑に属す。

總	埋圳數	灌漑排水面積	灌漑百分比例面積
水利組合數	七千五百一	二百四十萬甲	100·0
公共埋圳	一百五	一百二十萬甲	五〇·〇
認定外埋圳	三	一一二千甲	〇·五
	七千五百九十三	八百八十六	三·七

本表は昭和三年度末現在の調査なり。

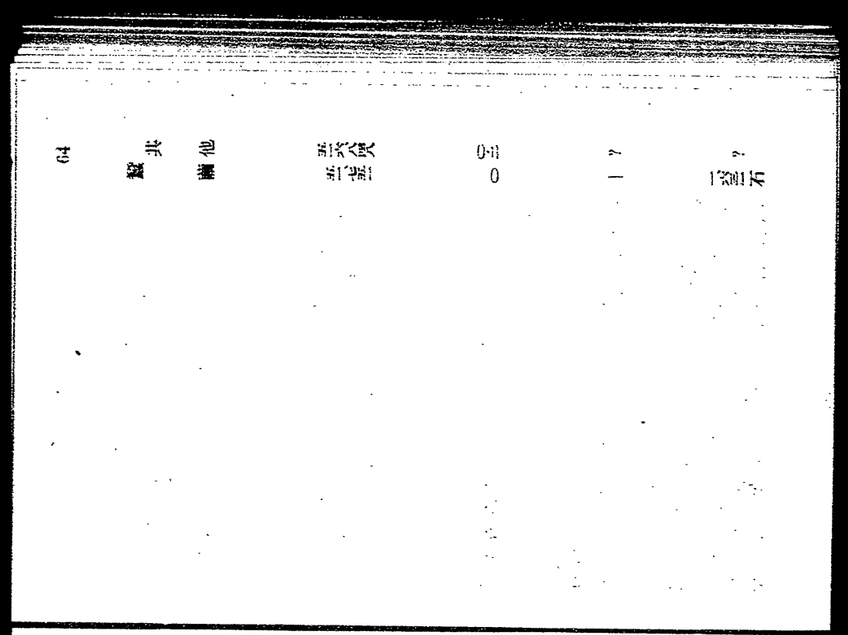
二六 農産

臺灣の農產物は、昭和三年中の總生產價額二億五千三百萬圓にして內普通作物一億五千九百萬圓、特用作物七千萬圓、園藝作物二千四百萬圓なり。

更に之を作物別に觀るに、米は一億三千萬圓を以て第一位を占め、甘蔗は五千八百萬圓を以て之に亞ぎ、甘藷の二千三百萬圓、蔬菜類の一千二百萬圓、芎蕉（バナナ）の六百九十萬圓、茶の六百三十萬圓、落花生の二百八十萬圓、鳳梨の百九十五萬圓、柑橘の百九十二萬圓、豆類の百五十萬圓等順次之に亞ぐ。

	生產價額	生產價額百分比例	作付面積	收穫高
總額	二五三,二五七,二一八円	一〇〇・〇	—甲	—
普通作物	一五九,〇三三,一三六	六二・八	—	—
米（玄米）	一三三,九五三,六八八	五二・九	六〇三,〇六八	六,七九五,〇〇五石
甘藷	二三,九八三,〇三五	九・一	一三六,六三六	二,二一四,八〇三,四三〇斤
豆類	一,五〇六,二三六	〇・六	三三,〇八五	八三,七三三石
小麥	五一,二五九	〇	五〇〇	三,〇七五石
其他	五二九,五六〇	〇・二	?	?
特用作物	七〇,三六三,六七七	二七・八	—	—
甘蔗	五八,七八一,四四一	二三・八	一〇八,三四二	九,六七四,九二六,〇九二斤

	生產價額	生產價額百分比例	作付面積	收穫高
茶	六,三三二,三三〇	二・五	四三,八〇五	一八,三四三,六六八斤
落花生	二,八〇六,八九七	一・一	二七,〇五三	四七〇,五八三石
煙草	九六三,〇六〇	〇・四	九三〇	二,五〇三,三九九斤
黃麻	八九八,一三三	〇・四	二,七五三	七,三〇三,〇八三斤
苧麻	六三三,一〇五	〇・三	一,七三三	三,〇〇四,三五八斤
胡麻	二六八,五二八	〇・一	三,六〇四	一一,三六六石
藍	七三,一九四	〇	八〇七	八五五,八四一斤
香花	三六五,九六五	〇・二	三一九	一,八六五,五二六斤
芏茨	一七〇,一五七	〇・一	二五六	二,三〇〇,三六七斤
其他	四六六,〇七七	〇	?	?
園藝作物	二三,九二九,五六三	九・四	—	—
芎蕉	六,九一九,七九一	二・七	一五,六九一	一三五,七六六,六七七斤
柑橘	一,九二八,七〇〇	〇・八	三,八五六	三一,六五一,三六八斤
龍眼	三九九,四七三	〇・一	三,〇八〇	七,八六六,一四五斤
檳榔	三〇三,九四三	〇・一	一,一八三	五,三五三,三四六斤
鳳梨	一,九五八,八三一	〇・八	三,〇七	三六,〇四四,四四四個
樣仔	一三三,三四三	〇	八六六	三,六七九,六四三斤
李	一七三,三一八	〇・一	五三四	六,九三一,五五三斤
蔬菜	一二,七〇六,六一六	四・八	?	?



二七　畜産

滿鐵の畜産物生産總價額は、昭和三年に四千萬圓を算し內家畜生産三千五百萬圓、家禽生産五百萬圓、家畜畜産中、豚は三千百萬圓を以て第一位を占め、水牛の二百萬圓之に亞ぐ。家禽生産中第一位を占むるは鷄の四百萬圓なり。

	生産價額	百分比例
總家畜	四〇、六三七、〇六六	一〇〇·〇
家畜	三四、一七〇、〇六一	八五·五
豚	三、〇四〇、〇四〇	七·六
其他の家畜	一、五三六、六九〇	三·八
水牛	二、〇〇〇、〇〇〇	五·〇
牛	三、三三三、三三三	八·三
牛乳	四、〇〇〇、〇〇〇	一〇·〇
家禽	六、五〇〇、〇〇〇	一六·三
鷄	四、〇〇〇、〇〇〇	一〇·〇
其他の家禽	二、五〇〇、〇〇〇	六·三

種類	價額	百價分比例額
薪用材	四億九千五百萬圓	100·0
竹材	三億六千八百萬圓	三六·八
労材	一億四千六百萬圓	一四·六
木材	一億二千三百萬圓	一二·三
樺材	一億一千六百萬圓	一一·六
粗朶	一億一千二百萬圓	一一·二
薪	一億一千一百萬圓	一一·一
製炭	一億一千一百萬圓	一一·一
樺	一億一千一百萬圓	一一·一
灰	一億一千一百萬圓	一一·一
樺	一億一千一百萬圓	一一·一
鹿	一億一千一百萬圓	一一·一
油炭	一億一千一百萬圓	一一·一
漆石	一億一千一百萬圓	一一·一
蠟石	一億一千一百萬圓	一一·一
粗朶	一億一千一百萬圓	一一·一
樺	一億一千一百萬圓	一一·一
油炭	一億一千一百萬圓	一一·一
類材	一億一千一百萬圓	一一·一
樺材	一億一千一百萬圓	一一·一
竹材	一億一千一百萬圓	一一·一
薪用材	一億一千一百萬圓	一一·一
總額	一億一千一百萬圓	一一·一

三、林　産

漆液の林産物生産額は、昭和三年に二千萬圓を數し內川材の五百八十萬圓第一位を占め、薪材の四百五十萬圓、労材油の百九十萬圓、木炭の百七十萬圓、樺類油の百五十萬圓、竹類の二百萬圓、労樺油の百十萬圓等順次之に亞ぐ。

二九　鑛　産

鑛産額は、昭和三年に一千七百万圓を算し内石炭は鑛産額の六割、即ち一千三百五十萬圓を以て之に次き、石油の七十三萬圓を以て第一位を占め、金鑛は百五十萬圓を以て之に次ぎ、石油の七十三萬圓等順次之に次ぐ。

鑛	産額	價額	百分比例
總額	一千七百万圓	一千三百五十万圓	一〇〇·〇
石炭	一千六百六十万圓	一千三百四十六万圓	九三·〇
石油	七十三万〇千圓	七十三万〇千圓	五·〇
金鑛	一百五十万圓	一百五十万圓	一·一
銅鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
硫黄鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
硫化鉄鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
水銀鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
砂鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
銀鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
砒素鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
金鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
石炭	一千六百六十万圓	一千三百四十六万圓	九三·〇
石油	七十三万〇千圓	七十三万〇千圓	五·〇
銅鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
硫黄鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
硫化鉄鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
水銀鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
砂鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
銀鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
砒素鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
金鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
石炭	一千六百六十万圓	一千三百四十六万圓	九三·〇
石油	七十三万〇千圓	七十三万〇千圓	五·〇

鑛	産額	價額	百分比例
銅鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
硫黄鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
硫化鉄鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
水銀鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
砂鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
銀鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
砒素鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
金鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
石炭	一千六百六十万圓	一千三百四十六万圓	九三·〇
石油	七十三万〇千圓	七十三万〇千圓	五·〇
銅鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
硫黄鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
硫化鉄鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
水銀鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
砂鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
銀鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
砒素鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
金鑛	二百六十万圓	二百六十万圓	一·一
石炭	一千六百六十万圓	一千三百四十六万圓	九三·〇
石油	七十三万〇千圓	七十三万〇千圓	五·〇

三〇　水　産

滿洲の水産總價額は、昭和三年には一千九百八十萬圓を數し、內水産滿鐵漁獲物一千二百七十萬圓、滿鐵製造物二百七十萬圓、水産製造物三百四十萬圓なりし。

更に之を品目別に觀れば、鮒の二百五十萬圓第一位を占め、鰊の百四十萬圓等順次之に亞ぐ。

總水産漁獲物額	價額	百分比例
鯉	一、八二三、〇一四	一〇〇·〇
鰊	二、四二〇、〇一八	二四·九
鮒	一、八二九、九四四	一八·三
鱒	一、四二二、〇一〇	一四·二
鱈	九六〇、三九六	九·五
鰷	六四〇、一六三	六·三
鮭	三五四、九三四	三·七
鱚	二六一、八六六	二·六
鰍	二四九、七一一	二·五
蝦	一四二、三四七	一·七
蟹	一四〇、三四〇	一·四

其他	四四九,四五八	三七
養殖場漁獲物	三,四〇一,七七九	二七六
虱目魚(サツバヒイ)	三,〇四〇,三四六	一〇三
鰱魚(レンヒイ)	三五三,五九七	一二
草魚(ツアウヒイ)	三三九,七一五	一二
鯽仔(オシアプ(カき))	四四〇,〇一〇	一三
烏魚(オオヒイ(ホラ))	一六七,五三三	〇八
鯰魚(タイヒイ(コヒ))	一五一,六九五	〇八
其他	一三六,〇〇四	〇六
水產製造物	三,七〇六,六六三	三七
鰹節	一,六五一,七六八	八五
煮干鰮	三六六,五五三	一三
蒲鉾	一六六,一七八	一〇
魩仔(カラスミ)	一三九,八四五	〇七
鰻鯗	一三〇,一四〇	〇七
鹽魚	六〇一,三六一	〇三

其他	三七一,八七八	一四
製鹽	一,〇三三,八五五	五三

三一　工　產

臺灣の工業總生產價額は、昭和三年に二億六千八百萬圓を算し内砂糖の一億七千四百萬圓は群を拔いてその第一位を占め、再製茶の一千萬圓、帽子の八百七十萬圓、酒精の五百六十萬圓、調合肥料の五百萬圓、木製品の四百五十萬圓、セメントの三百七十萬圓等順次之に亞ぐ。

	生產價額	生產價額百分比例
總額	二六七、八四三、四八六円	一〇〇・〇
砂糖	一七四、四九八、三三三	六五・一
酒精（稅拔）	五、六三三、一九九	二・一
再製茶	一〇、三八三、〇七一	三・九
原動機及其附屬機械類其他	三、一六六、四〇六	一・二
木製品	四、四七〇、〇三三	一・七
セメント	三、六八九、三三〇	一・四
染色	九三三、四六三	〇・三
麵類	三、〇一七、五六〇	一・一
煉瓦（耐火化粧共）	二、五四六、五七五	一・〇

	生產價額	生產價額百分比例
調合肥料	四、九五七、四八三	一・九
金銀細工	二、一六一、八〇五	〇・八
味噌及醬油	二、四六〇、五四三	〇・九
植物性油及同油粕	二、九八八、三二五	一・一
敷瓦及屋根瓦	一、四四五、五五七	〇・五
金銀紙	一、七六七、六五五	〇・七
製粉	二、四〇四、九五三	〇・九
織物	一、八六八、八八三	〇・七
糖蜜（稅拔）	二、五九五、五八五	一・〇
帽子	八、六九六、一七一	三・三
靴	一、三六六、三三四	〇・五
製氷	一、四〇六、三五三	〇・五
竹細工	一、四五六、八四八	〇・五
鳳梨罐詰	二、八〇九、一七四	一・〇
板狀樟腦	一、一〇八、四五一	〇・四
紙	一、〇八八、一五六	〇・四
其他	一九、〇〇五、一七三	七・一

三　糖　業

百は業百四十一万四千斤なり。作業能力は昭和四年に於て、公稱資本金三億九千百万圓、公稱資本金四億三千六百万圓、作業能力十三億千六百四十六、作業米噸数四十六、其の製糖高十二億九千七百万斤に達す。作業工場数百五十二、作業工場数四十六、作業米噸数百万噸を有し、その製糖高十二億九千七百万斤なり。

	公稱資本金	工場数	作業能力	製糖高	百分比
総	三億九千百万圓	四六	四百万噸	一億二千九百万斤	100·0
新式製糖会社	三億六千六百万圓	一四	三千六百万噸	一億九千六百万斤	六六
糖業	五千000圓	一三	三六百万噸	五六一百三十万斤	五·三
明治製糖	一千三百00圓	一	五六0噸	一百三十五万斤	一·0
大日本製糖	四六000圓	七	七三0噸	三六一百五0万斤	二九
台湾製糖	三億五千四百万圓	六	七0六噸	一億三千三百六00万斤	一千三
南洋製糖	三六000圓	三	四六0噸	一億六千四百六00万斤	一三六
新高製糖	一六000圓	三	三百三十噸	一億三千三百三十万斤	四·0
帝国製糖	五百三十万圓	二	三三六六10万斤	一億三千四百六00万斤	一·七
昭和製糖	五百000圓	一	三百10万斤	六千六百三十万斤	0·五

滋賀県沙金採取

新式製糖会社の糖業は昭和四年に於て、公稱資本金二億九千百万圓、作業工場数百五十二、作業工場数四十六、作業米噸数百万噸を有し、その製糖高十二億九千七百万斤なり。作業能力は四百万噸なりしが、其の製糖高は三億六千六百万斤に達す。

改良竹製糖

新式製糖

昭和四年頃迄は昭和三年十一月より翌四年十月に至る期間を云ふ。

	三千五00	1	三00	六0六百三0	0·三
	三千00	1	三六六	六01百千00	0·六
	八六三	九	六00	九六六百千00六	0·七
	?	九七	九千0	九三六六一三	0·七

三三　貿易

臺灣の貿易は之を外國貿易及內地貿易（臺灣內地間貿易）の二種に分つべきも、今之を總括すれば明治三十年の三千一百萬圓より大正元年の一億二千五百萬圓に進みたり。大正二、三の兩年は砂糖の減產と一般商況の不振に依り少しく減退したるも、大正五年には世界大戰の影響を受けて、一億七千七百萬圓に達し、大正六年には二億圓臺に上り、大正八年には更に三億圓臺を突破せり。然るに大正十年及同十一年には世界經濟界の不況に伴ひ再び二億七、八千萬圓に減退したりしも、大正十二年には復た三億圓臺に上り、昭和三年には四億四千萬圓に達し、人口一人當百一圓を算せり。

次に貿易總額に對する內外兩貿易の割合を觀るに、內地貿易は常に過半數を占め少きも七割、多きは七割九分に達す。

一　貿易總表

	總額（千圓）	指數	外國貿易（千圓）	內地貿易（千圓）	百分比例 外國貿易	百分比例 內地貿易	平均一人當（圓）
大正元年	一二五、四五四	一〇〇	三四、三七七	九一、〇七七	二七・三	七二・七	三七・四
同　二年	一一四、三二八	九一	三〇、〇六六	八四、二六二	二六・一	七三・九	三三・四
同　三年	一一一、六三三	八九	二五、九六六	八五、六七七	二三・三	七六・七	三二・三

	總額（千圓）	指數	外國貿易（千圓）	內地貿易（千圓）	百分比例 外國貿易	百分比例 內地貿易	平均一人當（圓）
同　四年	一三九、〇三三	一一一	三八、二三三	一〇〇、八〇三	二七・九	七二・一	三七・〇
同　五年	一七七、三二〇	一四一	四七、〇八三	一三〇、二三七	二六・五	七三・五	四九・五
同　六年	二三四、七九一	一八七	六一、三一五	一七三、四七六	二六・一	七三・九	六五・九
同　七年	二四四、五七六	一九四	六八、七九九	一七五、七七七	二七・五	七二・五	六八・〇
同　八年	三三三、三五六	二六五	九九、七五五	二三三、七八一	三〇・〇	七〇・〇	九一・六
同　九年	三八八、七〇三	三一〇	九五、五四〇	二九三、一六二	二四・六	七五・四	一〇五・八
同　十年	二八六、三五三	二二八	六二、九七三	二二三、四一八	二二・三	七七・七	七六・三
同　十一年	二七四、九六〇	二一九	六七、四八五	二〇九、四六五	二四・四	七五・六	七三・五
同　十二年	三一八、七三四	二五四	八六、三五四	二四〇、四〇〇	二七・一	七二・九	七九・三
同　十三年	三六八、七〇〇	二九八	八九、〇〇〇	二七九、七〇〇	二四・〇	七六・〇	九七・七
同　十四年	四四九、六一〇	三五八	一〇四、四五五	三四五、一五五	二三・三	七六・八	一二〇・七
昭和元年	四四四、八六八	三五七	一一二、三三三	三三二、五三五	二五・六	七四・四	一〇四・七
同　二年	四四三、六三五	三五八	一一〇、四四八	三三三、一八七	二五・五	七四・五	一〇三・〇
同　三年	四四九、〇七一	三五〇	九二、二三一	三五六、八四〇	二一・〇	七九・〇	一〇〇・九

二　外國貿易

	總額（千圓）	指數	輸出（千圓）	輸入（千圓）	輸入超過（千圓）
大正元年	三四、三七七	一〇〇	一四、九六〇	一九、三七七	四、三七七
同　二年	三〇、〇六六	八七	一二、九四三	一八、〇三四	五、〇八一

	總額	指數	輸出	輸入	超過
同三年	三五、九九六	七六	一六、九八二	一九、〇一四	二、〇三二
同四年	三八、三三三	八一	二〇、五四〇	一七、七八三	(1) 二、七五七
同五年	四七、〇八三	一〇〇	三一、八二三	一五、四四〇	(1) 一六、三八三
同六年	六二、三三五	一三一	四〇、三三六	二二、〇九九	(1) 一八、二三七
同七年	六六、九四九	一四一	三三、三九四	三三、五五五	一六一
同八年	九九、七五五	二一〇	三五、六三三	六四、一二二	二八、四八九
同九年	九五、五四〇	二〇一	三五、一七三	六〇、三六七	二五、一九四
同十年	六三、九七五	一三五	二三、五四一	四〇、四三三	一六、八九二
同十一年	七七、四八五	一六四	三〇、五六三	四六、九二二	一六、三五九
同十二年	六八、六六四	一四五	二九、一二二	三九、五四二	一〇、四二〇
同十三年	八九、〇〇〇	一八八	四三、五七六	四五、四二四	一、八四八
同十四年	一〇四、四五五	二二一	四七、九七六	五六、四七九	八、五〇三
昭和元年	一一二、三三三	二三七	四九、三二五	六三、〇〇八	一三、六八三
同二年	一二〇、四三八	二五四	五四、五九八	六五、八四〇	一一、二四二
同三年	九三、三三二	一九七	三三、八九六	五九、四三六	二五、五四〇

(1)は輸出超過なり。

三　內地貿易

	總額（千円）	指數	移出（千円）	移入（千円）	移出超過（千円）
大正元年	九一、二一七	一〇〇	四七、八六二	四三、三五五	四、五〇七

	總額	指數	移出	移入	移出超過
同二年	八五、六二三	九三	四〇、四四七	四五、一七六	(1) 四、七二九
同三年	八五、六九七	九四	四五、七三八	三九、九五九	五、七七九
同四年	一〇〇、八三二	一一一	六〇、一九三	四〇、六三九	一九、五五四
同五年	一三〇、三七七	一四三	八〇、九六二	四九、四一五	三一、五四七
同六年	一七三、三七八	一九〇	一〇五、五八八	六七、七九〇	三七、七九八
同七年	一七八、六七七	一九六	一〇五、九六三	七二、七一四	三三、二四九
同八年	二三三、七八一	二五六	一四二、二〇八	九一、五七三	五〇、六三五
同九年	二五九、一六三	二八五	一八二、〇九三	七七、〇七〇	一〇五、〇二三
同十年	二二三、四一八	二四四	一六八、八七七	五四、五四一	一一四、三三六
同十一年	二五九、四五五	二八四	一七七、三〇一	八二、一五四	九五、一四七
同十二年	二四〇、四二〇	二六四	一六九、四四二	七一、〇一八	九八、四二四
同十三年	二九七、七〇〇	三二七	二一〇、九九八	八六、七〇二	一二四、二九六
同十四年	三四五、一五五	三七九	二三五、三五九	一〇九、七九六	一二五、五六三
昭和元年	三三三、五五五	三六五	二〇三、一一〇	一三〇、四四五	七二、六六五
同二年	三三三、一八〇	三六五	二〇三、〇九九	一三〇、〇八一	七三、〇一八
同三年	三四六、八四〇	三八〇	二一四、九三三	一三一、九〇七	八三、〇二六

(1)は移入超過なり。

三四　對手國別外國貿易

第一位を占むるは支那の五百弗、第二位を占むるは英領印度の五百弗、第三位は支那の千五百弗、第四位は英領印度の二百弗、第五位は支那の二千七百弗、第六位は北米合衆國の二千二百弗、第七位は英領印度の四百弗、第八位は支那の九千二百弗、第九位は英領印度の三百弗、第十位は北米合衆國の四百弗、第十一位は支那の三百弗、第十二位は英領印度の三百弗、第十三位は北米合衆國の二百弗、第十四位は支那の六百弗、第十五位は英領印度の二百弗、第十六位は北米合衆國の二百弗、第十七位は支那の千四百弗、第十八位は英領印度の二百弗、第十九位は北米合衆國の二百弗、第二十位は支那の千二百弗、第二十一位は英領印度の二百弗、第二十二位は北米合衆國の二百弗、第二十三位は支那の千二百弗、第二十四位は英領印度の二百弗、第二十五位は北米合衆國の二百弗、第二十六位は支那の千二百弗、第二十七位は英領印度の二百弗、第二十八位は北米合衆國の二百弗、第二十九位は支那の千二百弗、第三十位は英領印度の二百弗、第三十一位は北米合衆國の二百弗、第三十二位は支那の千二百弗、第三十三位は英領印度の二百弗、第三十四位は北米合衆國の二百弗、第三十五位は支那の千二百弗、第三十六位は英領印度の二百弗、第三十七位は北米合衆國の二百弗、第三十八位は支那の千二百弗、第三十九位は英領印度の二百弗、第四十位は北米合衆國の二百弗、第四十一位は支那の千二百弗、第四十二位は英領印度の二百弗、第四十三位は北米合衆國の二百弗、第四十四位は支那の千二百弗、第四十五位は英領印度の二百弗、第四十六位は北米合衆國の二百弗、第四十七位は支那の千二百弗、第四十八位は英領印度の二百弗、第四十九位は北米合衆國の二百弗、第五十位は支那の千二百弗、第五十一位は英領印度の二百弗、第五十二位は北米合衆國の二百弗、第五十三位は支那の千二百弗、第五十四位は英領印度の二百弗、第五十五位は北米合衆國の二百弗、第五十六位は支那の千二百弗、第五十七位は英領印度の二百弗、第五十八位は北米合衆國の二百弗、第五十九位は支那の千二百弗、第六十位は英領印度の二百弗、第六十一位は北米合衆國の二百弗、第六十二位は支那の千二百弗、第六十三位は英領印度の二百弗、第六十四位は北米合衆國の二百弗、第六十五位は支那の千二百弗、第六十六位は英領印度の二百弗、第六十七位は北米合衆國の二百弗、第六十八位は支那の千二百弗、第六十九位は英領印度の二百弗、第七十位は北米合衆國の二百弗、第七十一位は支那の千二百弗、第七十二位は英領印度の二百弗、第七十三位は北米合衆國の二百弗、第七十四位は支那の千二百弗、第七十五位は英領印度の二百弗、第七十六位は北米合衆國の二百弗、第七十七位は支那の千二百弗、第七十八位は英領印度の二百弗、第七十九位は北米合衆國の二百弗、第八十位は支那の千二百弗、第八十一位は英領印度の二百弗、第八十二位は北米合衆國の二百弗、第八十三位は支那の千二百弗、第八十四位は英領印度の二百弗、第八十五位は北米合衆國の二百弗、第八十六位は支那の千二百弗、第八十七位は英領印度の二百弗、第八十八位は北米合衆國の二百弗、第八十九位は支那の千二百弗、第九十位は英領印度の二百弗、第九十一位は北米合衆國の二百弗、第九十二位は支那の千二百弗、第九十三位は英領印度の二百弗、第九十四位は北米合衆國の二百弗、第九十五位は支那の千二百弗、第九十六位は英領印度の二百弗、第九十七位は北米合衆國の二百弗、第九十八位は支那の千二百弗、第九十九位は英領印度の二百弗、第百位は北米合衆國の二百弗、第百一位は支那の千二百弗、第百二位は英領印度の二百弗、第百三位は北米合衆國の二百弗、第百四位は支那の千二百弗、第百五位は英領印度の二百弗、第百六位は北米合衆國の二百弗、第百七位は支那の千二百弗、第百八位は英領印度の二百弗、第百九位は北米合衆國の二百弗、第百十位は支那の千二百弗、第百十一位は英領印度の二百弗、第百十二位は北米合衆國の二百弗、第百十三位は支那の千二百弗、第百十四位は英領印度の二百弗、第百十五位は北米合衆國の二百弗、第百十六位は支那の千二百弗、第百十七位は英領印度の二百弗、第百十八位は北米合衆國の二百弗、第百十九位は支那の千二百弗、第百二十位は英領印度の二百弗、第百二十一位は北米合衆國の二百弗、第百二十二位は支那の千二百弗、第百二十三位は英領印度の二百弗、第百二十四位は北米合衆國の二百弗、第百二十五位は支那の千二百弗、第百二十六位は英領印度の二百弗、第百二十七位は北米合衆國の二百弗、第百二十八位は支那の千二百弗、第百二十九位は英領印度の二百弗、第百三十位は北米合衆國の二百弗、第百三十一位は支那の千二百弗、第百三十二位は英領印度の二百弗、第百三十三位は北米合衆國の二百弗、第百三十四位は支那の千二百弗、第百三十五位は英領印度の二百弗、第百三十六位は北米合衆國の二百弗、第百三十七位は支那の千二百弗、第百三十八位は英領印度の二百弗、第百三十九位は北米合衆國の二百弗、第百四十位は支那の千二百弗、第百四十一位は英領印度の二百弗、第百四十二位は北米合衆國の二百弗、第百四十三位は支那の千二百弗、第百四十四位は英領印度の二百弗、第百四十五位は北米合衆國の二百弗、第百四十六位は支那の千二百弗、第百四十七位は英領印度の二百弗、第百四十八位は北米合衆國の二百弗、第百四十九位は支那の千二百弗、第百五十位は英領印度の二百弗、第百五十一位は北米合衆國の二百弗、第百五十二位は支那の千二百弗、第百五十三位は英領印度の二百弗、第百五十四位は北米合衆國の二百弗、第百五十五位は支那の千二百弗、第百五十六位は英領印度の二百弗、第百五十七位は北米合衆國の二百弗、第百五十八位は支那の千二百弗、第百五十九位は英領印度の二百弗、第百六十位は北米合衆國の二百弗、第百六十一位は支那の千二百弗、第百六十二位は英領印度の二百弗、第百六十三位は北米合衆國の二百弗、第百六十四位は支那の千二百弗、第百六十五位は英領印度の二百弗、第百六十六位は北米合衆國の二百弗、第百六十七位は支那の千二百弗、第百六十八位は英領印度の二百弗、第百六十九位は北米合衆國の二百弗、第百七十位は支那の千二百弗、第百七十一位は英領印度の二百弗、第百七十二位は北米合衆國の二百弗、第百七十三位は支那の千二百弗、第百七十四位は英領印度の二百弗、第百七十五位は北米合衆國の二百弗、第百七十六位は支那の千二百弗、第百七十七位は英領印度の二百弗、第百七十八位は北米合衆國の二百弗、第百七十九位は支那の千二百弗、第百八十位は英領印度の二百弗、第百八十一位は北米合衆國の二百弗、第百八十二位は支那の千二百弗、第百八十三位は英領印度の二百弗、第百八十四位は北米合衆國の二百弗、第百八十五位は支那の千二百弗、第百八十六位は英領印度の二百弗、第百八十七位は北米合衆國の二百弗、第百八十八位は支那の千二百弗、第百八十九位は英領印度の二百弗、第百九十位は北米合衆國の二百弗、第百九十一位は支那の千二百弗、第百九十二位は英領印度の二百弗、第百九十三位は北米合衆國の二百弗、第百九十四位は支那の千二百弗、第百九十五位は英領印度の二百弗、第百九十六位は北米合衆國の二百弗、第百九十七位は支那の千二百弗、第百九十八位は英領印度の二百弗、第百九十九位は北米合衆國の二百弗、第二百位は支那の千二百弗、第二百一位は英領印度の二百弗、第二百二位は北米合衆國の二百弗、第二百三位は支那の千二百弗、第二百四位は英領印度の二百弗、第二百五位は北米合衆國の二百弗、第二百六位は支那の千二百弗、第二百七位は英領印度の二百弗、第二百八位は北米合衆國の二百弗、第二百九位は支那の千二百弗、第二百十位は英領印度の二百弗、第二百十一位は北米合衆國の二百弗、第二百十二位は支那の千二百弗、第二百十三位は英領印度の二百弗、第二百十四位は北米合衆國の二百弗、第二百十五位は支那の千二百弗、第二百十六位は英領印度の二百弗、第二百十七位は北米合衆國の二百弗、第二百十八位は支那の千二百弗、第二百十九位は英領印度の二百弗、第二百二十位は北米合衆國の二百弗、第二百二十一位は支那の千二百弗、第二百二十二位は英領印度の二百弗、第二百二十三位は北米合衆國の二百弗、第二百二十四位は支那の千二百弗、第二百二十五位は英領印度の二百弗、第二百二十六位は北米合衆國の二百弗、第二百二十七位は支那の千二百弗、第二百二十八位は英領印度の二百弗、第二百二十九位は北米合衆國の二百弗、第二百三十位は支那の千二百弗、第二百三十一位は英領印度の二百弗、第二百三十二位は北米合衆國の二百弗、第二百三十三位は支那の千二百弗、第二百三十四位は英領印度の二百弗、第二百三十五位は北米合衆國の二百弗、第二百三十六位は支那の千二百弗、第二百三十七位は英領印度の二百弗、第二百三十八位は北米合衆國の二百弗、第二百三十九位は支那の千二百弗、第二百四十位は英領印度の二百弗、第二百四十一位は北米合衆國の二百弗、第二百四十二位は支那の千二百弗、第二百四十三位は英領印度の二百弗、第二百四十四位は北米合衆國の二百弗、第二百四十五位は支那の千二百弗、第二百四十六位は英領印度の二百弗、第二百四十七位は北米合衆國の二百弗、第二百四十八位は支那の千二百弗、第二百四十九位は英領印度の二百弗、第二百五十位は北米合衆國の二百弗、第二百五十一位は支那の千二百弗、第二百五十二位は英領印度の二百弗、第二百五十三位は北米合衆國の二百弗、第二百五十四位は支那の千二百弗、第二百五十五位は英領印度の二百弗、第二百五十六位は北米合衆國の二百弗、第二百五十七位は支那の千二百弗、第二百五十八位は英領印度の二百弗、第二百五十九位は北米合衆國の二百弗、第二百六十位は支那の千二百弗、第二百六十一位は英領印度の二百弗、第二百六十二位は北米合衆國の二百弗、第二百六十三位は支那の千二百弗、第二百六十四位は英領印度の二百弗、第二百六十五位は北米合衆國の二百弗、第二百六十六位は支那の千二百弗、第二百六十七位は英領印度の二百弗、第二百六十八位は北米合衆國の二百弗、第二百六十九位は支那の千二百弗、第二百七十位は英領印度の二百弗、第二百七十一位は北米合衆國の二百弗、第二百七十二位は支那の千二百弗、第二百七十三位は英領印度の二百弗、第二百七十四位は北米合衆國の二百弗、第二百七十五位は支那の千二百弗、第二百七十六位は英領印度の二百弗、第二百七十七位は北米合衆國の二百弗、第二百七十八位は支那の千二百弗、第二百七十九位は英領印度の二百弗、第二百八十位は北米合衆國の二百弗、第二百八十一位は支那の千二百弗、第二百八十二位は英領印度の二百弗、第二百八十三位は北米合衆國の二百弗、第二百八十四位は支那の千二百弗、第二百八十五位は英領印度の二百弗、第二百八十六位は北米合衆國の二百弗、第二百八十七位は支那の千二百弗、第二百八十八位は英領印度の二百弗、第二百八十九位は北米合衆國の二百弗、第二百九十位は支那の千二百弗、第二百九十一位は英領印度の二百弗、第二百九十二位は北米合衆國の二百弗、第二百九十三位は支那の千二百弗、第二百九十四位は英領印度の二百弗、第二百九十五位は北米合衆國の二百弗、第二百九十六位は支那の千二百弗、第二百九十七位は英領印度の二百弗、第二百九十八位は北米合衆國の二百弗、第二百九十九位は支那の千二百弗、第三百位は英領印度の二百弗、第三百一位は北米合衆國の二百弗、第三百二位は支那の千二百弗、第三百三位は英領印度の二百弗、第三百四位は北米合衆國の二百弗、第三百五位は支那の千二百弗、第三百六位は英領印度の二百弗、第三百七位は北米合衆國の二百弗、第三百八位は支那の千二百弗、第三百九位は英領印度の二百弗、第三百十位は北米合衆國の二百弗、第三百十一位は支那の千二百弗、第三百十二位は英領印度の二百弗、第三百十三位は北米合衆國の二百弗、第三百十四位は支那の千二百弗、第三百十五位は英領印度の二百弗、第三百十六位は北米合衆國の二百弗、第三百十七位は支那の千二百弗、第三百十八位は英領印度の二百弗、第三百十九位は北米合衆國の二百弗、第三百二十位は支那の千二百弗、第三百二十一位は英領印度の二百弗、第三百二十二位は北米合衆國の二百弗、第三百二十三位は支那の千二百弗、第三百二十四位は英領印度の二百弗、第三百二十五位は北米合衆國の二百弗、第三百二十六位は支那の千二百弗、第三百二十七位は英領印度の二百弗、第三百二十八位は北米合衆國の二百弗、第三百二十九位は支那の千二百弗、第三百三十位は英領印度の二百弗、第三百三十一位は北米合衆國の二百弗、第三百三十二位は支那の千二百弗、第三百三十三位は英領印度の二百弗、第三百三十四位は北米合衆國の二百弗、第三百三十五位は支那の千二百弗、第三百三十六位は英領印度の二百弗、第三百三十七位は北米合衆國の二百弗、第三百三十八位は支那の千二百弗、第三百三十九位は英領印度の二百弗、第三百四十位は北米合衆國の二百弗、第三百四十一位は支那の千二百弗、第三百四十二位は英領印度の二百弗、第三百四十三位は北米合衆國の二百弗、第三百四十四位は支那の千二百弗、第三百四十五位は英領印度の二百弗、第三百四十六位は北米合衆國の二百弗、第三百四十七位は支那の千二百弗、第三百四十八位は英領印度の二百弗、第三百四十九位は北米合衆國の二百弗、第三百五十位は支那の千二百弗、第三百五十一位は英領印度の二百弗、第三百五十二位は北米合衆國の二百弗、第三百五十三位は支那の千二百弗、第三百五十四位は英領印度の二百弗、第三百五十五位は北米合衆國の二百弗、第三百五十六位は支那の千二百弗、第三百五十七位は英領印度の二百弗、第三百五十八位は北米合衆國の二百弗、第三百五十九位は支那の千二百弗、第三百六十位は英領印度の二百弗、第三百六十一位は北米合衆國の二百弗、第三百六十二位は支那の千二百弗、第三百六十三位は英領印度の二百弗、第三百六十四位は北米合衆國の二百弗、第三百六十五位は支那の千二百弗、第三百六十六位は英領印度の二百弗、第三百六十七位は北米合衆國の二百弗、第三百六十八位は支那の千二百弗、第三百六十九位は英領印度の二百弗、第三百七十位は北米合衆國の二百弗、第三百七十一位は支那の千二百弗、第三百七十二位は英領印度の二百弗、第三百七十三位は北米合衆國の二百弗、第三百七十四位は支那の千二百弗、第三百七十五位は英領印度の二百弗、第三百七十六位は北米合衆國の二百弗、第三百七十七位は支那の千二百弗、第三百七十八位は英領印度の二百弗、第三百七十九位は北米合衆國の二百弗、第三百八十位は支那の千二百弗、第三百八十一位は英領印度の二百弗、第三百八十二位は北米合衆國の二百弗、第三百八十三位は支那の千二百弗、第三百八十四位は英領印度の二百弗、第三百八十五位は北米合衆國の二百弗、第三百八十六位は支那の千二百弗、第三百八十七位は英領印度の二百弗、第三百八十八位は北米合衆國の二百弗、第三百八十九位は支那の千二百弗、第三百九十位は英領印度の二百弗、第三百九十一位は北米合衆國の二百弗、第三百九十二位は支那の千二百弗、第三百九十三位は英領印度の二百弗、第三百九十四位は北米合衆國の二百弗、第三百九十五位は支那の千二百弗、第三百九十六位は英領印度の二百弗、第三百九十七位は北米合衆國の二百弗、第三百九十八位は支那の千二百弗、第三百九十九位は英領印度の二百弗、第四百位は北米合衆國の二百弗、第四百一位は支那の千二百弗、第四百二位は英領印度の二百弗、第四百三位は北米合衆國の二百弗、第四百四位は支那の千二百弗、第四百五位は英領印度の二百弗、第四百六位は北米合衆國の二百弗、第四百七位は支那の千二百弗、第四百八位は英領印度の二百弗、第四百九位は北米合衆國の二百弗、第四百十位は支那の千二百弗、第四百十一位は英領印度の二百弗、第四百十二位は北米合衆國の二百弗、第四百十三位は支那の千二百弗、第四百十四位は英領印度の二百弗、第四百十五位は北米合衆國の二百弗、第四百十六位は支那の千二百弗、第四百十七位は英領印度の二百弗、第四百十八位は北米合衆國の二百弗、第四百十九位は支那の千二百弗、第四百二十位は英領印度の二百弗、第四百二十一位は北米合衆國の二百弗、第四百二十二位は支那の千二百弗、第四百二十三位は英領印度の二百弗、第四百二十四位は北米合衆國の二百弗、第四百二十五位は支那の千二百弗、第四百二十六位は英領印度の二百弗、第四百二十七位は北米合衆國の二百弗、第四百二十八位は支那の千二百弗、第四百二十九位は英領印度の二百弗、第四百三十位は北米合衆國の二百弗、第四百三十一位は支那の千二百弗、第四百三十二位は英領印度の二百弗、第四百三十三位は北米合衆國の二百弗、第四百三十四位は支那の千二百弗、第四百三十五位は英領印度の二百弗、第四百三十六位は北米合衆國の二百弗、第四百三十七位は支那の千二百弗、第四百三十八位は英領印度の二百弗、第四百三十九位は北米合衆國の二百弗、第四百四十位は支那の千二百弗、第四百四十一位は英領印度の二百弗、第四百四十二位は北米合衆國の二百弗、第四百四十三位は支那の千二百弗、第四百四十四位は英領印度の二百弗、第四百四十五位は北米合衆國の二百弗、第四百四十六位は支那の千二百弗、第四百四十七位は英領印度の二百弗、第四百四十八位は北米合衆國の二百弗、第四百四十九位は支那の千二百弗、第四百五十位は英領印度の二百弗、第四百五十一位は北米合衆國の二百弗、第四百五十二位は支那の千二百弗、第四百五十三位は英領印度の二百弗、第四百五十四位は北米合衆國の二百弗、第四百五十五位は支那の千二百弗、第四百五十六位は英領印度の二百弗、第四百五十七位は北米合衆國の二百弗、第四百五十八位は支那の千二百弗、第四百五十九位は英領印度の二百弗、第四百六十位は北米合衆國の二百弗、第四百六十一位は支那の千二百弗、第四百六十二位は英領印度の二百弗、第四百六十三位は北米合衆國の二百弗、第四百六十四位は支那の千二百弗、第四百六十五位は英領印度の二百弗、第四百六十六位は北米合衆國の二百弗、第四百六十七位は支那の千二百弗、第四百六十八位は英領印度の二百弗、第四百六十九位は北米合衆國の二百弗、第四百七十位は支那の千二百弗、第四百七十一位は英領印度の二百弗、第四百七十二位は北米合衆國の二百弗、第四百七十三位は支那の千二百弗、第四百七十四位は英領印度の二百弗、第四百七十五位は北米合衆國の二百弗、第四百七十六位は支那の千二百弗、第四百七十七位は英領印度の二百弗、第四百七十八位は北米合衆國の二百弗、第四百七十九位は支那の千二百弗、第四百八十位は英領印度の二百弗、第四百八十一位は北米合衆國の二百弗、第四百八十二位は支那の千二百弗、第四百八十三位は英領印度の二百弗、第四百八十四位は北米合衆國の二百弗、第四百八十五位は支那の千二百弗、第四百八十六位は英領印度の二百弗、第四百八十七位は北米合衆國の二百弗、第四百八十八位は支那の千二百弗、第四百八十九位は英領印度の二百弗、第四百九十位は北米合衆國の二百弗、第四百九十一位は支那の千二百弗、第四百九十二位は英領印度の二百弗、第四百九十三位は北米合衆國の二百弗、第四百九十四位は支那の千二百弗、第四百九十五位は英領印度の二百弗、第四百九十六位は北米合衆國の二百弗、第四百九十七位は支那の千二百弗、第四百九十八位は英領印度の二百弗、第四百九十九位は北米合衆國の二百弗、第五百位は支那の千二百弗、第五百一位は英領印度の二百弗、第五百二位は北米合衆國の二百弗、第五百三位は支那の千二百弗、第五百四位は英領印度の二百弗、第五百五位は北米合衆國の二百弗、第五百六位は支那の千二百弗、第五百七位は英領印度の二百弗、第五百八位は北米合衆國の二百弗、第五百九位は支那の千二百弗、第五百十位は英領印度の二百弗、第五百十一位は北米合衆國の二百弗、第五百十二位は支那の千二百弗、第五百十三位は英領印度の二百弗、第五百十四位は北米合衆國の二百弗、第五百十五位は支那の千二百弗、第五百十六位は英領印度の二百弗、第五百十七位は北米合衆國の二百弗、第五百十八位は支那の千二百弗、第五百十九位は英領印度の二百弗、第五百二十位は北米合衆國の二百弗、第五百二十一位は支那の千二百弗、第五百二十二位は英領印度の二百弗、第五百二十三位は北米合衆國の二百弗、第五百二十四位は支那の千二百弗、第五百二十五位は英領印度の二百弗、第五百二十六位は北米合衆國の二百弗、第五百二十七位は支那の千二百弗、第五百二十八位は英領印度の二百弗、第五百二十九位は北米合衆國の二百弗、第五百三十位は支那の千二百弗、第五百三十一位は英領印度の二百弗、第五百三十二位は北米合衆國の二百弗、第五百三十三位は支那の千二百弗、第五百三十四位は英領印度の二百弗、第五百三十五位は北米合衆國の二百弗、第五百三十六位は支那の千二百弗、第五百三十七位は英領印度の二百弗、第五百三十八位は北米合衆國の二百弗、第五百三十九位は支那の千二百弗、第五百四十位は英領印度の二百弗、第五百四十一位は北米合衆國の二百弗、第五百四十二位は支那の千二百弗、第五百四十三位は英領印度の二百弗、第五百四十四位は北米合衆國の二百弗、第五百四十五位は支那の千二百弗、第五百四十六位は英領印度の二百弗、第五百四十七位は北米合衆國の二百弗、第五百四十八位は支那の千二百弗、第五百四十九位は英領印度の二百弗、第五百五十位は北米合衆國の二百弗、第五百五十一位は支那の千二百弗、第五百五十二位は英領印度の二百弗、第五百五十三位は北米合衆國の二百弗、第五百五十四位は支那の千二百弗、第五百五十五位は英領印度の二百弗、第五百五十六位は北米合衆國の二百弗、第五百五十七位は支那の千二百弗、第五百五十八位は英領印度の二百弗、第五百五十九位は北米合衆國の二百弗、第五百六十位は支那の千二百弗、第五百六十一位は英領印度の二百弗、第五百六十二位は北米合衆國の二百弗、第五百六十三位は支那の千二百弗、第五百六十四位は英領印度の二百弗、第五百六十五位は北米合衆國の二百弗、第五百六十六位は支那の千二百弗、第五百六十七位は英領印度の二百弗、第五百六十八位は北米合衆國の二百弗、第五百六十九位は支那の千二百弗、第五百七十位は英領印度の二百弗、第五百七十一位は北米合衆國の二百弗、第五百七十二位は支那の千二百弗、第五百七十三位は英領印度の二百弗、第五百七十四位は北米合衆國の二百弗、第五百七十五位は支那の千二百弗、第五百七十六位は英領印度の二百弗、第五百七十七位は北米合衆國の二百弗、第五百七十八位は支那の千二百弗、第五百七十九位は英領印度の二百弗、第五百八十位は北米合衆國の二百弗、第五百八十一位は支那の千二百弗、第五百八十二位は英領印度の二百弗、第五百八十三位は北米合衆國の二百弗、第五百八十四位は支那の千二百弗、第五百八十五位は英領印度の二百弗、第五百八十六位は北米合衆國の二百弗、第五百八十七位は支那の千二百弗、第五百八十八位は英領印度の二百弗、第五百八十九位は北米合衆國の二百弗、第五百九十位は支那の千二百弗、第五百九十一位は英領印度の二百弗、第五百九十二位は北米合衆國の二百弗、第五百九十三位は支那の千二百弗、第五百九十四位は英領印度の二百弗、第五百九十五位は北米合衆國の二百弗、第五百九十六位は支那の千二百弗、第五百九十七位は英領印度の二百弗、第五百九十八位は北米合衆國の二百弗、第五百九十九位は支那の千二百弗、第六百位は英領印度の二百弗、第六百一位は北米合衆國の二百弗、第六百二位は支那の千二百弗、第六百三位は英領印度の二百弗、第六百四位は北米合衆國の二百弗、第六百五位は支那の千二百弗、第六百六位は英領印度の二百弗、第六百七位は北米合衆國の二百弗、第六百八位は支那の千二百弗、第六百九位は英領印度の二百弗、第六百十位は北米合衆國の二百弗、第六百十一位は支那の千二百弗、第六百十二位は英領印度の二百弗、第六百十三位は北米合衆國の二百弗、第六百十四位は支那の千二百弗、第六百十五位は英領印度の二百弗、第六百十六位は北米合衆國の二百弗、第六百十七位は支那の千二百弗、第六百十八位は英領印度の二百弗、第六百十九位は北米合衆國の二百弗、第六百二十位は支那の千二百弗、第六百二十一位は英領印度の二百弗、第六百二十二位は北米合衆國の二百弗、第六百二十三位は支那の千二百弗、第六百二十四位は英領印度の二百弗、第六百二十五位は北米合衆國の二百弗、第六百二十六位は支那の千二百弗、第六百二十七位は英領印度の二百弗、第六百二十八位は北米合衆國の二百弗、第六百二十九位は支那の千二百弗、第六百三十位は英領印度の二百弗、第六百三十一位は北米合衆國の二百弗、第六百三十二位は支那の千二百弗、第六百三十三位は英領印度の二百弗、第六百三十四位は北米合衆國の二百弗、第六百三十五位は支那の千二百弗、第六百三十六位は英領印度の二百弗、第六百三十七位は北米合衆國の二百弗、第六百三十八位は支那の千二百弗、第六百三十九位は英領印度の二百弗、第六百四十位は北米合衆國の二百弗、第六百四十一位は支那の千二百弗、第六百四十二位は英領印度の二百弗、第六百四十三位は北米合衆國の二百弗、第六百四十四位は支那の千二百弗、第六百四十五位は英領印度の二百弗、第六百四十六位は北米合衆國の二百弗、第六百四十七位は支那の千二百弗、第六百四十八位は英領印度の二百弗、第六百四十九位は北米合衆國の二百弗、第六百五十位は支那の千二百弗、第六百五十一位は英領印度の二百弗、第六百五十二位は北米合衆國の二百弗、第六百五十三位は支那の千二百弗、第六百五十四位は英領印度の二百弗、第六百五十五位は北米合衆國の二百弗、第六百五十六位は支那の千二百弗、第六百五十七位は英領印度の二百弗、第六百五十八位は北米合衆國の二百弗、第六百五十九位は支那の千二百弗、第六百六十位は英領印度の二百弗、第六百六十一位は北米合衆國の二百弗、第六百六十二位は支那の千二百弗、第六百六十三位は英領印度の二百弗、第六百六十四位は北米合衆國の二百弗、第六百六十五位は支那の千二百弗、第六百六十六位は英領印度の二百弗、第六百六十七位は北米合衆國の二百弗、第六百六十八位は支那の千二百弗、第六百六十九位は英領印度の二百弗、第六百七十位は北米合衆國の二百弗、第六百七十一位は支那の千二百弗、第六百七十二位は英領印度の二百弗、第六百七十三位は北米合衆國の二百弗、第六百七十四位は支那の千二百弗、第六百七十五位は英領印度の二百弗、第六百七十六位は北米合衆國の二百弗、第六百七十七位は支那の千二百弗、第六百七十八位は英領印度の二百弗、第六百七十九位は北米合衆國の二百弗、第六百八十位は支那の千二百弗、第六百八十一位は英領印度の二百弗、第六百八十二位は北米合衆國の二百弗、第六百八十三位は支那の千二百弗、第六百八十四位は英領印度の二百弗、第六百八十五位は北米合衆國の二百弗、第六百八十六位は支那の千二百弗、第六百八十七位は英領印度の二百弗、第六百八十八位は北米合衆國の二百弗、第六百八十九位は支那の千二百弗、第六百九十位は英領印度の二百弗、第六百九十一位は北米合衆國の二百弗、第六百九十二位は支那の千二百弗、第六百九十三位は英領印度の二百弗、第六百九十四位は北米合衆國の二百弗、第六百九十五位は支那の千二百弗、第六百九十六位は英領印度の二百弗、第六百九十七位は北米合衆國の二百弗、第六百九十八位は支那の千二百弗、第六百九十九位は英領印度の二百弗、第七百位は北米合衆國の二百弗、第七百一位は支那の千二百弗、第七百二位は英領印度の二百弗、第七百三位は北米合衆國の二百弗、第七百四位は支那の千二百弗、第七百五位は英領印度の二百弗、第七百六位は北米合衆國の二百弗、第七百七位は支那の千二百弗、第七百八位は英領印度の二百弗、第七百九位は北米合衆國の二百弗、第七百十位は支那の千二百弗、第七百十一位は英領印度の二百弗、第七百十二位は北米合衆國の二百弗、第七百十三位は支那の千二百弗、第七百十四位は英領印度の二百弗、第七百十五位は北米合衆國の二百弗、第七百十六位は支那の千二百弗、第七百十七位は英領印度の二百弗、第七百十八位は北米合衆國の二百弗、第七百十九位は支那の千二百弗、第七百二十位は英領印度の二百弗、第七百二十一位は北米合衆國の二百弗、第七百二十二位は支那の千二百弗、第七百二十三位は英領印度の二百弗、第七百二十四位は北米合衆國の二百弗、第七百二十五位は支那の千二百弗、第七百二十六位は英領印度の二百弗、第七百二十七位は北米合衆國の二百弗、第七百二十八位は支那の千二百弗、第七百二十九位は英領印度の二百弗、第七百三十位は北米合衆國の二百弗、第七百三十一位は支那の千二百弗、第七百三十二位は英領印度の二百弗、第七百三十三位は北米合衆國の二百弗、第七百三十四位は支那の千二百弗、第七百三十五位は英領印度の二百弗、第七百三十六位は北米合衆國の二百弗、第七百三十七位は支那の千二百弗、第七百三十八位は英領印度の二百弗、第七百三十九位は北米合衆國の二百弗、第七百四十位は支那の千二百弗、第七百四十一位は英領印度の二百弗、第七百四十二位は北米合衆國の二百弗、第七百四十三位は支那の千二百弗、第七百四十四位は英領印度の二百弗、第七百四十五位は北米合衆國の二百弗、第七百四十六位は支那の千二百弗、第七百四十七位は英領印度の二百弗、第七百四十八位は北米合衆國の二百弗、第七百四十九位は支那の千二百弗、第七百五十位は英領印度の二百弗、第七百五十一位は北米合衆國の二百弗、第七百五十二位は支那の千二百弗、第七百五十三位は英領印度の二百弗、第七百五十四位は北米合衆國の二百弗、第七百五十五位は支那の千二百弗、第七百五十六位は英領印度の二百弗、第七百五十七位は北米合衆國の二百弗、第七百五十八位は支那の千二百弗、第七百五十九位は英領印度の二百弗、第七百六十位は北米合衆國の二百弗、第七百六十一位は支那の千二百弗、第七百六十二位は英領印度の二百弗、第七百六十三位は北米合衆國の二百弗、第七百六十四位は支那の千二百弗、第七百六十五位は英領印度の二百弗、第七百六十六位は北米合衆國の二百弗、第七百六十七位は支那の千二百弗、第七百六十八位は英領印度の二百弗、第七百六十九位は北米合衆國の二百弗、第七百七十位は支那の千二百弗、第七百七十一位は英領印度の二百弗、第七百七十二位は北米合衆國の二百弗、第七百七十三位は支那の千二百弗、第七百七十四位は英領印度の二百弗、第七百七十五位は北米合衆國の二百弗、第七百七十六位は支那の千二百弗、第七百七十七位は英領印度の二百弗、第七百七十八位は北米合衆國の二百弗、第七百七十九位は支那の千二百弗、第七百八十位は英領印度の二百弗、第七百八十一位は北米合衆國の二百弗、第七百八十二位は支那の千二百弗、第七百八十三位は英領印度の二百弗、第七百八十四位は北米合衆國の二百弗、第七百八十五位は支那の千二百弗、第七百八十六位は英領印度の二百弗、第七百八十七位は北米合衆國の二百弗、第七百八十八位は支那の千二百弗、第七百八十九位は英領印度の二百弗、第七百九十位は北米合衆國の二百弗、第七百九十一位は支那の千二百弗、第七百九十二位は英領印度の二百弗、第七百九十三位は北米合衆國の二百弗、第七百九十四位は支那の千二百弗、第七百九十五位は英領印度の二百弗、第七百九十六位は北米合衆國の二百弗、第七百九十七位は支那の千二百弗、第七百九十八位は英領印度の二百弗、第七百九十九位は北米合衆國の二百弗、第八百位は支那の千二百弗、第八百一位は英領印度の二百弗、第八百二位は北米合衆國の二百弗、第八百三位は支那の千二百弗、第八百四位は英領印度の二百弗、第八百五位は北米合衆國の二百弗、第八百六位は支那の千二百弗、第八百七位は英領印度の二百弗、第八百八位は北米合衆國の二百弗、第八百九位は支那の千二百弗、第八百十位は英領印度の二百弗、第八百十一位は北米合衆國の二百弗、第八百十二位は支那の千二百弗、第八百十三位は英領印度の二百弗、第八百十四位は北米合衆國の二百弗、第八百十五位は支那の千二百弗、第八百十六位は英領印度の二百弗、第八百十七位は北米合衆國の二百弗、第八百十八位は支那の千二百弗、第八百十九位は英領印度の二百弗、第八百二十位は北米合衆國の二百弗、第八百二十一位は支那の千二百弗、第八百二十二位は英領印度の二百弗、第八百二十三位は北米合衆國の二百弗、第八百二十四位は支那の千二百弗、第八百二十五位は英領印度の二百弗、第八百二十六位は北米合衆國の二百弗、第八百二十七位は支那の千二百弗、第八百二十八位は英領印度の二百弗、第八百二十九位は北米合衆國の二百弗、第八百三十位は支那の千二百弗、第八百三十一位は英領印度の二百弗、第八百三十二位は北米合衆國の二百弗、第八百三十三位は支那の千二百弗、第八百三十四位は英領印度の二百弗、第八百三十五位は北米合衆國の二百弗、第八百三十六位は支那の千二百弗、第八百三十七位は英領印度の二百弗、第八百三十八位は北米合衆國の二百弗、第八百三十九位は支那の千二百弗、第八百四十位は英領印度の二百弗、第八百四十一位は北米合衆國の二百弗、第八百四十二位は支那の千二百弗、第八百四十三位は英領印度の二百弗、第八百四十四位は北米合衆國の二百弗、第八百四十五位は支那の千二百弗、第八百四十六位は英領印度の二百弗、第八百四十七位は北米合衆國の二百弗、第八百四十八位は支那の千二百弗、第八百四十九位は英領印度の二百弗、第八百五十位は北米合衆國の二百弗、第八百五十一位は支那の千二百弗、第八百五十二位は英領印度の二百弗、第八百五十三位は北米合衆國の二百弗、第八百五十四位は支那の千二百弗、第八百五十五位は英領印度の二百弗、第八百五十六位は北米合衆國の二百弗、第八百五十七位は支那の千二百弗、第八百五十八位は英領印度の二百弗、第八百五十九位は北米合衆國の二百弗、第八百六十位は支那の千二百弗、第八百六十一位は英領印度の二百弗、第八百六十二位は北米合衆國の二百弗、第八百六十三位は支那の千二百弗、第八百六十四位は英領印度の二百弗、第八百六十五位は北米合衆國の二百弗、第八百六十六位は支那の千二百弗、第八百六十七位は英領印度の二百弗、第八百六十八位は北米合衆國の二百弗、第八百六十九位は支那の千二百弗、第八百七十位は英領印度の二百弗、第八百七十一位は北米合衆國の二百弗、第八百七十二位は支那の千二百弗、第八百七十三位は英領印度の二百弗、第八百七十四位は北米合衆國の二百弗、第八百七十五位は支那の千二百弗、第八百七十六位は英領印度の二百弗、第八百七十七位は北米合衆國の二百弗、第八百七十八位は支那の千二百弗、第八百七十九位は英領印度の二百弗、第八百八十位は北米合衆國の二百弗、第八百八十一位は支那の千二百弗、第八百八十二位は英領印度の二百弗、第八百八十三位は北米合衆國の二百弗、第八百八十四位は支那の千二百弗、第八百八十五位は英領印度の二百弗、第八百八十六位は北米合衆國の二百弗、第八百八十七位は支那の千二百弗、第八百八十八位は英領印度の二百弗、第八百八十九位は北米合衆國の二百弗、第八百九十位は支那の千二百弗、第八百九十一位は英領印度の二百弗、第八百九十二位は北米合衆國の二百弗、第八百九十三位は支那の千二百弗、第八百九十四位は英領印度の二百弗、第八百九十五位は北米合衆國の二百弗、第八百九十六位は支那の千二百弗、第八百九十七位は英領印度の二百弗、第八百九十八位は北米合衆國の二百弗、第八百九十九位は支那の千二百弗、第九百位は英領印度の二百弗、第九百一位は北米合衆國の二百弗、第九百二位は支那の千二百弗、第九百三位は英領印度の二百弗、第九百四位は北米合衆國の二百弗、第九百五位は支那の千二百弗、第九百六位は英領印度の二百弗、第九百七位は北米合衆國の二百

| | | |

三 比例

年	南洋	香港	支那	總額
大正十年入出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十年輸入	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十年輸出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十一年入出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十一年輸入	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十一年輸出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十二年入出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十二年輸入	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十二年輸出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十三年入出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十三年輸入	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十三年輸出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
昭和元年入出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
昭和元年輸入	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
昭和元年輸出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
同二年入出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
同二年輸入	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
同二年輸出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
同三年入出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
同三年輸入	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
同三年輸出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

比例對律那、支及香港、南洋の輸出入總額百分

年	南洋	香港	支那	總額
大正十年入出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十年輸入	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十年輸出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十一年入出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十一年輸入	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十一年輸出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十二年入出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十二年輸入	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十二年輸出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十三年入出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十三年輸入	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正十三年輸出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
昭和元年入出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
昭和元年輸入	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
昭和元年輸出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
同二年入出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
同二年輸入	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
同二年輸出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
同三年入出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
同三年輸入	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
同三年輸出	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

ガニ硝子	二、〇〇〇瓩	昭和三年	同
小杉火薬	二、〇〇〇瓩	同	同
小杉火薬	二、〇〇〇瓩	同	同
石炭	二、〇〇〇瓩	同	同
米麦	二、〇〇〇瓩	同	同
麦酒

三七　重要品別內地貿易

臺灣の內地貿易中移出品の主要なるものは、砂糖、米、芭蕉布、樟腦及樟腦油、鳳梨罐詰、柿材、酒精、醋酸等なり。今昭和三年に就て之を觀るに、砂糖は一億三千百萬圓を以て第一位を占め、米の五千三百萬圓、芭蕉布の八百六十萬圓、酒精の三百六十萬圓、樟腦及樟腦油の三百三十萬圓、鳳梨罐詰の二百六十萬圓、樟腦及樟腦油の各百七十萬圓、切紙類及柿材柿板の各百六十萬圓等順次之に亞ぐ。

次に移入品の主要なるものは、綿織及綿織布、肥料、纖、酒類、鹽鰮、炭材、紙、小麥粉等にして、昭和三年には綿織及綿織布の千五百萬圓第一位を占め、肥料の八百七十萬圓、紙の三百二十萬圓、麥酒及小麥粉の各三百萬圓、炭材及炭板の二百六十萬圓、酒類の二百十萬圓、鹽鰮の百九十萬圓、過燐酸石灰及松材松板の各百八十萬圓等順次之に亞ぐ。

一　移出

	昭和三年	同二年	同元年	大正十四年	同十三年	同十二年	同元年
砂糖	一三一四千圓	九四三千圓	九二五千圓	一〇五六千圓	一一九七千圓	一一一〇千圓	九二一千圓
米	五三五〇千圓	五四八六千圓	五〇〇四千圓	五一一〇千圓	四八四〇千圓	五〇五四千圓	一〇一三千圓
芭蕉布	三六四〇千圓	三六四六千圓	四六一〇千圓	三八五五千圓	三〇四〇千圓	三〇〇五千圓	二九九〇千圓
樟腦及樟腦油	三三九九千圓	三八四五千圓	四六六八千圓	三三六九千圓	三八四〇千圓	三三二一千圓	二九九〇千圓

松茸砂糖漬	二、〇〇〇	宅地	二、〇〇〇
松茸砂糖漬	二、〇〇〇	小米	二、〇〇〇
松茸砂糖漬	二、〇〇〇	紙巻煙草

三八　港別貿易

昭和三年に於ける各港の輸出入貿易總額の五割四分を占め、總額の一千二百萬圓、淡水の四百萬圓を始め殖産の諸港は之を合算するも僅かに總額の四分を占むるに過ぎず。

今之を内地其の他の諸港と比較するに、基隆は神戸、横濱、大阪、大連、釜山に次で第六位を占めて釜山と仁川との中間に、高雄は第七位を占めて仁川の上に在り、更に安平は武藏と新潟との中間に、淡水は博多と那覇との中間に位す。

			總額	輸出	輸入
武仁南基釜大大横神			二億四千萬圓	一億二千萬圓	一億二千萬圓
豐川雄隆山連馬濱戸			一億九千萬圓	一億四千萬圓	五千萬圓
〃			一億四千萬圓	一億二千萬圓	二千萬圓
			一億二

三九　財政

道府縣者所特別會計か全く國庫の補助を受けすして、獨立の實を擧くるに至りしは、明治三十八年度以來の事にして、同年度の歳入は僅かに二千五百萬圓に過きさりしか、翌年度には一億圓を突破し、大正八年度には二億圓に達し、大正九年度には一億千九百萬圓に增加せり。而して同年度の歳入は僅かに二千五百萬圓に增額せしか、大正十年度にはより更に一億四千七百萬圓に激せり。然るに昭和元年度には一億三千萬圓に增額し、同六年度には少しく減退を示したり。

次に歳入中其の主要部分を占むるは、官業及官有財産收入にして、其の歳入總額に對する例令は、年に依り多少の高低あるも少きも三割九分、多きは五割九分を占む。

昭和十一年度に歳出は明治三十八年度の二千萬圓に增額せり、大正八年度の七千二百萬圓に增加し、更に大正九年度には九千六百萬圓に增額せり。大正十二年度以後には一億圓叢に減退したりしも、同三年度以後には一億圓叢に激せり。

明治三十八年度	大正元年度	同六年度	同九年度	同十年度	同十一年度	同十二年度	同十三年度	同十四年度	昭和元年度	同二年度	同三年度	同四年度
歳入 總額 千圓	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬
歳入 租稅 千圓	一億四千萬	一億四千萬	一億四千萬	一億四千萬	一億四千萬	一億四千萬	一億四千萬	一億四千萬	一億四千萬	一億四千萬	一億四千萬	一億四千萬
歳入 租稅 %/yyyy 總額ニ對スル比率	五割九分	五割九分	五割九分	五割九分	五割九分	五割九分	五割九分	五割九分	五割九分	五割九分	五割九分	五割九分
歳入 其他 千圓	四101	四101	四101	四101	四101	四101	四101	四101	四101	四101	四101	四101
歳入 指數	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
歳入百分比例 租稅	五割一	五割一	五割一	五割一	五割一	五割一	五割一	五割一	五割一	五割一	五割一	五割一
歳入百分比例 %/yyyy 財産及官業收入	四割八	四割八	四割八	四割八	四割八	四割八	四割八	四割八	四割八	四割八	四割八	四割八
歳入百分比例 其他	三割九	三割九	三割九	三割九	三割九	三割九	三割九	三割九	三割九	三割九	三割九	三割九
歳出 總額 千圓	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬	二億四千萬
歳出 指數	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

四〇　專　賣

鹿瀧の專賣は乳香阿片、食鹽、樟腦、煙草及酒の五種なるが、就中酒は大正十一年七月以降の減稅さす。今最近十七年間に於ける賣渡價額を觀るに、大大正元年度に千七百萬圓なりしものが、大正六年度には二千萬圓を超ゆるに至り、更に大正九年度には三千萬圓を突破したるも、翌大正十年度には經濟界の世界的不況に伴ひ、樟腦の知きは特に前年度の一年度に千萬圓より五百萬圓に減退したる後め、煙草も二千五百萬圓に低下したりしが、大正十二年度には稀や事況を回復したるも、酒は賣渡數量も三千四百萬圓に增加せり。

昭和元年度以後の鹿瀧川庄產業は、大正十四年度に四千五百萬圓に達し、大正十二年度に減額せる以後の賣渡價額は、之を觀るに、阿片は四千萬圓に關する事項に公表せざる後め、食鹽、樟腦及酒の五種に關する事項は一般に公表せざる後め、本表に於ては阿片

同同昭同同同

但し勸業銀行支店元金は毎月末本店勘定の平均額なり。

四二　物　價

臺灣の物價は世界大戰の影響を受くること比較的少かりしも、戰局の進展に伴ひ、大正七年頃より著しき昂騰を示し、大正九年にはその絶頂に達したりしが、翌大正十年以降は稍や低落の趨勢に在りたるも、最近に至り少しく高率を示せり。卽ち主要なる日常生活必需品の臺北市に於ける物價の最近十七箇年の指數はよくその趨勢を示せり。

	米	甘藷（赤）	米麵（太）	醬油（内地式）	牛肉（牛）	豚肉	木炭	薪
大正元年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	—	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
同二年	九五	九五	九五	—	九二	一〇五	一〇四	一一七
同三年	九六	八〇	九二	—	一一四	九五	一〇一	一一七
同四年	九六	七二	九六	—	八九	八八	八八	九二
同五年	九六	六六	八〇	一〇〇	九一	八四	一〇七	一二五
同六年	一〇五	九〇	九九	一〇九	九一	一一三	一一四	一四一
同七年	一六八	一〇〇	一〇〇	一一三	一三五	一四四	一四一	一四一
同八年	一九六	一二五	一二九	一二六	一四四	一八八	一七一	一六五
同九年	一四〇	一〇五	一〇五	一〇六	一六九	三六九	二四四	二三五
同十年	一三三	一〇四	一〇六	一〇六	二〇一	二〇一	二〇一	二〇〇
同十一年	一二七	一〇八	一〇六	一〇一	二〇八	一三五	一六〇	一八〇

| | | |

| | | |

各郡市の本土人の分を以て掲出す。

蕃人戶數は昭和四年三月一日現在に依る。

朝鮮總督府は昭和三年度末(兒童は昭和四年三月一日)現在にして同府統計書に依る。

樺太は昭和三年度末現在にして同廳統計書に依る。

關東廳(滿洲國)は昭和三年末現在にして同廳統計書に依る。

關東廳(內地、朝鮮、滿洲國、領事館)は昭和三年末現在にして同廳統計書に依る。

關北海道、內地府縣は昭和元年度末(兒童は昭和二年三月一日)現在にして帝國統計年鑑に依る。

四四　衛生機關

滿洲には昭和三年末現在、官立十三、公立十七、私立八十九、計百十九の醫院と、一千百六十名の醫師と、四百二十名の醫生と、二千百六十名の產婆とを有す。醫師、醫生一人に對する人口は全滿平均二千八百六十三、醫院の二千四百八、最も多きは渤海縣の二千五百六十人にして、その割合の最も少きは花蓮港廳の一千六百九十人なり。

縣	醫院			醫師及醫生			產婆	人口醫師醫生一人に對する
	官立	公立	私立	總數	醫師	醫生		
滿洲	三	一四	四〇	一五三三	一一〇一	四三	一一六六	二八七四
新京	一	一	七	三四九	三三二	一七	三三	二五三三
奉天	一	一	一六	一五三	一四三	一二	一四〇一	二四〇一
錦州	一	一	一七	一五六	一四五	一一	一四五	二四九
吉林	一	一四	一六	一四九	一四五	四	一四〇	二四〇三
間島	一	一	一	一四五	一四五	一	一四五	二四五
牡丹江	一	一	一	一四五	一四五	一	一四五	二四二
渤海	一	一	一	一四五	一四五	一	一四五	二五六
合計	一三	一七	八九	一四二〇	一一〇一	四三	一一六六	二八七四

醫生免許規則に依り免許を得て非の資格

内に於て驗博を業と爲す者とす。
本表の外業顧問百一名、歯科驗師百四十八名あり。

四五　水　道

滋賀縣に於ける水道（簡易水道を含む）の總數は、陸軍省所管バロン、玉里（但し玉里庄下に於ける水道の大多數は簡易水道として其の消費水量不明のものを除き）、薩東、花蓮港廳の六廳に於ける水道の消費水量は不明なり）計算供給千五百二十六萬立方米、放任供給千六百二十六萬立方米なり。

〈新水道の分は表中に含む〉半官半民及廳管理所管理等の分は表中に含むも、年末現在給水戶數並川數三萬二千九百九十七戶、共用栓戶數二萬五千千八百四十五戶にして其の消費水量不明のものを除き、薩東、花蓮港廳の六廳は不明なり）計算供給千五百二十六萬立方米、放任供給千六百二十六萬立方米なり。

縣廳	水道數	年末現在 戶數川數栓	年末現在 共用戶數栓	年中消費水道（立方米） 總數	計算供給	放任供給
滋賀縣	四	三、九九四	三、六八〇	一、三三、〇一一	一、三三、〇一一	一、六〇、〇六六
新潟縣	二	一、六三四	二、一三五	一、三三、〇一九	二、一四六、〇三四	一、六〇、〇六六
竹南州	三	九三	七三	一、三三、〇一九	一、三三、〇一九	？
北斗郡	九	一、四三四	一、三三七	一、三八、〇八二	一、三八、〇八二	一、三八、〇八二
新竹州	五	一、四一四	一、四八〇	一、六三、一八六	一、六〇、一八六	一、六三、一八六
臺中州	六	一、〇九三	一、三一〇	一、四一、一〇〇	一、四一、六〇〇	一、三六、六六六
臺南州	三	一、七八	一、七三	？	—	？
花蓮港廳	一	八四	一、六六	一、三六	一、三六	一、六六

花蓮港廳の年中消毒水量は花蓮港水道の分の事實なり。
台東廳の外メロン（新竹州）玉里（花蓮港廳）壽（澎湖廳）竹崎（台南州）等の水道あるも消毒水量等不明なり。

四六　ペストとマラリア

漸減は一般に不健康地の如く解せらるゝも、衛生設備の完成と共に、近年其の面目を一新し、ペスト指數の知き大正七年以來全くえんか狀態を見る。又マラリアの知き其の死亡數は年に依りて增減あり之も漸、一般に減退の傾向を示し、明治三十九年に於て人口千に付死亡數九分を減三人二分なりしものが、昭和三年には一人に減退し、其の後數に於ても同年間に五分餘九分を減じたり。

	死亡實數		指數		人口千に付死亡	
	ペスト	マラリア	ペスト	マラリア	ペスト	マラリア
明治三十九年	三五三四	一〇、六三一	100	100	0·三四	三·三一
同四十年	二四四八	一二、七二五	七一	111	0·二九	三·七四
同四十一年	一〇六四	一一、四四〇	三四	111	0·一四	三·四五
同四十二年	八四四	一〇、三三四	二四	九六	0·一二	三·三六
同四十三年	三五	九、一〇四	一	八六	0·01	二·六三
大正元年	二六七	六、七八四	一四	五三	0·一一	二·四三
同二年	一三五	六、四三二	七五	五三	0·〇六	二·〇六
同三年	四四四	六、六三五	二四	五四	0·〇四	二·五三
同四年	二四八	一、三四〇	三九	二四	0·一四	二·三六
同五年	六四	一、三四〇	三	二六	0·〇三	二·四六

同五年	二、二三四	〇	一〇七	〇	二、三三二
同六年	二、九七六	一〇	一〇七	一〇	二、三三一
同七年	二、八二一	一〇	一〇七	一〇	二、三三一
同八年	二、八一〇	一〇	一〇七	一〇	二、三三一
同九年	二、七四〇	一〇	一〇七	一〇	二、三三一
同十年	二、八二六	一〇	一〇七	一〇	二、三三一
同十一年	二、二六四	一〇	一〇七	一〇	二、三三一
同十二年	二、九三五	一〇	一〇七	一〇	二、三三一
同十三年	二、六三八	一〇	一〇七	一〇	二、三三一
同十四年	二、五三五	一〇	一〇七	一〇	二、三三一
昭和元年	二、四五六	一〇	一〇七	一〇	二、三三一
同二年	二、三四四	一〇	一〇七	一〇	二、三三一
同三年	二、二四四	一〇	一〇七	一〇	二、三三一

四七　阿片吸食特許者

臺灣總督府は阿片問題に就ては、嚴禁主義を避けて漸禁の方針を執り、阿片癖者と認むる者に限り其の吸食を特許し、漸次之が絶滅を期し、逐年豫期の目的の到達に近つきつゝあり。卽ち之を最近十七年間に就て觀るに、阿片吸食特許者（本島人）の數は八萬七千人より二萬七千人に減少したり。

				特許年齢以上の本島人百に付	
	總數	男	女	指數	總數 男 女
大正元年	八、三三一	七、九九九	二、三三二	一〇〇	五三 八八 一二
同二年	八、二二六	七、二六一	一〇、二四四	九四	四九 八三 一六
同三年	七、九五五	六、八四〇	九、五五九	八八	四四 七七 一三
同四年	七、二三五	六、二三五	九、〇〇〇	七七	三六 七六 一三
同五年	六、八四九	五、七六九	八、四八〇	七二	三二 七〇 一二
同六年	六、三三四	五、四三四	七、九九九	六七	二九 六五 一〇
同七年	五、九三三	五、〇二二	七、二二二	六〇	二五 五九 一〇
同八年	五、二二一	四、五四〇	六、三四一	五四	二二 五二 一〇
同九年	四、三二二	四、二四〇	五、六〇〇	四二	一八 四九 一〇
同十年	三、三二八	三、二二〇	四、三三八	三二	一三 三六 一〇

同十二年	三、四四三	三、九五五	五、四四九	四五	二五	三九	〇六
同十三年	三、六二七	三、一四九	四、一三六	四一	二一	三六	〇六
同十四年	三、七五五	三、九〇一	四、七五四	五九	一七	三八	〇五
昭和元年	三、四三四	三、六九五	四、四四一	三六	一六	三六	〇五
同二年	三、〇四三	三、四九三	四、〇三	三五	一五	三四	〇四
同三年	三、九四一	三、〇九一	三、八五一	三一	一三	三三	〇四

本表は各年十二月末日現在にして本島人のみの事實なり。

四八　鐵　道

臺灣の鐵道は、昭和三年度末には官設鐵道(阿里山及羅東森林鐵道を含む)の營業哩數六百哩に達し、外に私設鐵道千三百哩を有す。私設鐵道は主として製糖會社の經營する所にして內營業線は三百哩なり。

今之を內地共の他と比較するに、百方里に付鐵道營業線の哩數は、關東州の三百十二哩最も多く、我臺灣の七十七哩之に亞ぎ、樺太の十三哩最も少し。更に人口萬に付哩數は樺太の十三哩最も多く、臺灣は二哩二分を以て內地の上に在り。

	總數 營業線路延長			官設		私設		百方里に付	人口萬に付
臺灣	九五一哩			六九九哩		三四二哩		七五四哩	二二哩
朝鮮	二〇五四			一、六六		四六六		一四四	一一
樺太	三〇〇			一八二		一八		二八	三五
關東州	七五四			—		七五四		三三五	六三
內地	三、九〇			八八七		三、七五三		五〇八	二一
道府縣									

朝鮮、樺太、關東州は昭和三年度末現在にして同廳統計書に依る。
內地道府縣は昭和二年度末現在の開業線哩にして帝國統計年鑑に依る。

四九　郵便、電信、電話

滿州に於ける郵便、電信、電話の現況を觀るに、明和三年度に於て通常郵便は引受六千二百萬、配達七千三百萬、電信は發信百五十萬、着信百五十萬、爲替は振出二千九百萬圓、拂渡千七百萬圓、貯金は預入一千五百萬圓、拂戻一千三百萬圓、貯金現在一千三百萬圓、振替貯金口座受入七千四百萬圓、拂出七千四百萬圓、現在五十九萬圓なり。又同年度末現在電話加入者數は一萬二千、年度中加入者數信通話度數は五千五百萬なり。

今之を內地及其の他に比較するに、人口十に對する割合は通常郵便引受、電報發信、爲替振出及貯金預入を通して最多數を示すは樺太にして、貯金預入以外は朝鮮最少數を示す。

話度數の最も多きは關東州、最も少きは內地遠府縣なり。

一　郵便、電信、爲替、貯金及電話

通常郵便	引受人口十に對す	引受の達受	一萬三千三百四十六
電信	發着人口十に對す	發信の着信	一萬四千二百五十六

内地	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二
北海道	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇
朝鮮	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
樺太	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
関東州	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
内地	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二
北海道	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇
朝鮮	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
樺太	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
関東州	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

二　内地其の他との比較（昭和三年度）

	郵便物	電信	電話	為替貯金	簡易生命保険	郵便年金	郵便貯金
内地	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二
北海道	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇
朝鮮	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
樺太	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
関東州	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
内地	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二
北海道	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇
朝鮮	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
樺太	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
関東州	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

人口十に對する

郵便物（郵便物、郵便物、郵便物、郵便物、郵便物、郵便物、郵便物）

為替貯金（為替貯金、為替貯金、為替貯金、為替貯金、為替貯金、為替貯金、為替貯金）

郵便物は昭和三年度、為替貯金は昭和三年度に依る。

電話は昭和三年度に依る。

	電話	振替貯金	貯金	為替
内地	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二
北海道	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇
朝鮮	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
樺太	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
関東州	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
内地	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二	一四〇、二一二
北海道	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇	一四、〇五〇
朝鮮	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
樺太	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
関東州	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

電話（付加加入者、申加入者、現口加入者、現口加入者）

電話（付加加入者、申加入者、現口加入者、現口加入者）

振替貯金（現口加入者、現口加入者）

貯金（預入現拂預入口十に對する在庫入）

為替（振込拂渡入口十に對する出る渡出）

五〇　警察官署及職員

臺灣の地方警察機關數は昭和三年末現在に依れば、州警務部五、廳警務課三、警察課六、郡警察課四十五、支廳十、派出所及駐在所千五百十にして、同職員の數は警視二十人、警部及警部補五百十人、巡査七千人なり。

今之を內地其の他と比較するに、一方里に對する巡査の數は、關東州の十一人最も多く、臺灣は三人を以て之に亞き、巡査一人に付人口は北海道の千二百七十人第一位を占め、朝鮮の千百人、內地府縣の千九十人、樺太の七百人、臺灣の六百三十人、關東州の四百五十人等順次之に亞ぐ。

	警察署	警察分署	派出所及駐在所	職員 警視	職員 警部及警部補	職員 巡査	一方里に付巡査	巡査一人に付人口
臺灣	六	—	一、三一〇	二〇	四三	四、〇八〇	三·〇	六三〇
朝鮮	二八〇	—	二、四四三	四五	一、三二一	一、六六四	一·三	一、一四四
樺太	三	—	四五	二	九	三六六	〇·一	六五五
關東州	三五	三	四四	二	二六	三、六四四	二·一	四八六
北海道	六四	—	八七七	六	一八五	二、〇三五	〇·四	一、二四一
內地府縣	一、二八〇	—	一、八二六	三四四	四、六七七	四、八六六	二·九	一、〇八八

本表は昭和三年末現在なり。

林	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑
畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑
田	田	田	田	田	田	田	田	田
樣	樣	樣	樣	樣	樣	樣	樣	樣
外	外	外	外	外	外	外	外	外
濱	濱	濱	濱	濱	濱	濱	濱	濱
本	本	本	本	本	本	本	本	本
內	內	內	內	內	內	內	內	內
岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡
島	島	島	島	島	島	島	島	島
地	地	地	地	地	地	地	地	地
五一	五一	五一	五一	五一	五一	五一	五一	五一
人	人	人	人	人	人	人	人	人
樣	樣	樣	樣	樣	樣	樣	樣	樣
最近十七年間の進歩								
大正元年	大正元年	大正元年	大正元年	大正元年	大正元年	大正元年	大正元年	大正元年
四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人
四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人	四萬三千五百五十五人
昭和三年	昭和三年	昭和三年	昭和三年	昭和三年	昭和三年	昭和三年	昭和三年	昭和三年
四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人
四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人	四萬八千八百四十四人
大正元年の戶數	大正元年の戶數	大正元年の戶數	大正元年の戶數	大正元年の戶數	大正元年の戶數	大正元年の戶數	大正元年の戶數	大正元年の戶數
一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶
一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶	一萬三千三百三十三戶

本表は濱の發達一人に付人口中樣の分は本地居住の樣人を數入て然田。

畑樣の發達の數據は明治期の戶數に付人口中樣の分は本地居住の樣人を數入て然田。

畑樣、林、外、濱、本、內、岡、島、地の戶數は明治期の戶數に付人口中樣の分は本地居住の樣人を數入て然田。

北濱、內、他、外、樣は明治期の戶數に付人口中樣の分は本地居住の樣人を數入て然田。

| | | |

| | | |

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

183

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

昭和五年六月三十日印刷
昭和五年六月三十日發行

臺灣總督府

東京市麻布区霞町一丁目十九番地
印刷人　中村誠道

東京市麻布区霞町一丁目三十八番地
印刷所　松浦屋印刷部